

バックアップ・DR・BCPアプライアンス 「SAFE」シリーズのご紹介

= 目次 =

1. Data & Topic
2. 製品ラインアップ
3. Server SAFE
4. Data SAFE
5. PC SAFE
6. 会社概要

コアマイクロシステムズ株式会社

平成22年4月30日



Data & Topics

コアマイクロシステムズ次期戦略・新製品発表会



コアマイクロシステムズ 次期戦略・新製品発表会 開催レポート

2009年11月13日開催 於:丸ビル ホール&コンファレンススクエア



■開催概要

名称 :コアマイクロシステムズ 次期戦略・新製品発表会

主催 :コアマイクロシステムズ株式会社

協賛 :Nexenta Systems, Inc. 

日時 :2009年11月13日(金曜日) 14時~16時20分(開場 13時30分)

会場 :丸ビル ホール&コンファレンススクエア ルーム#5

対象 :ソリューションプロバイダー様

当日の資料ダウンロード> : <http://www.cmsinc.co.jp/seminar/20091113.html>

100名近い方々にご参加を賜り、盛会にて「コアマイクロシステムズ 次期戦略・新製品発表会」を2009年11月13日に開催しました。

開催日当日は、フラグシップ製品であるSolid STOR(業界最速水準30万IOPSを実現するDRAM型半導体ストレージ)の技術を高度に発展させた、B-TREEフル連想型大容量キャッシュ装置「Super CACHE」及び応用装置である「Super SSD」を発表しました。また、次世代データセンタにおける仮想化環境のトータルQoSを効果的にかつ効率的に実現する革新のストレージ自動階層化/仮想化技術ZFSをベースとしたNexentaStorオープンストレージ・ソリューション「Prime STOR ZFS」及び「Prime GATE ZFS」の解説を行いました。

営業・マーケティング戦略としては「Solid STOR」、「Super CACHE」、「Super SSD」などの「スーパーストレージ」と「Primeシリーズ」、「Data SAFE」を重点製品と位置づけ、それぞれのターゲットとビジネスチャンスを解説しました。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

10月15日報道発表: Data SAFE

複数の小型NAS(Tera Station / LAN DISK等)やLinux / Windowsベースの
ファイルサーバをエージェントレスでバックアップする「Data SAFE」を発表
～業界初！エージェントレスバックアップを低価格アプライアンスで実現～

業界初のエージェントレスで複数の小型NAS(Tera Station / LAN DISK等)やLinux/Windowsベースのファイルサーバを統合バックアップするアプライアンス製品「Data SAFE」を12月1日より販売開始することを発表いたしました。弊社は、近年、導入が急増している小型NASに対して、統合的にバックアップがとれる手軽なソリューションが存在していなく、市場から強い要望を頂いているため本製品を発表いたしました。

本製品はエージェントレスのバックアップ・アプライアンスであるため、保護対象サーバへのエージェント等のインストールが一切不要であるため、ファイルサーバを運用できるお客様であれば誰でも簡単に設置・設定ができ、現在保護されていないTera StationやLAN DISK等の小型NAS及びLinuxやWindowsファイルサーバを統合的かつ低コストでデータ保護ができるようになります。また、本製品は遠隔バックアップ機能を標準で搭載しているため、遠隔地にData SAFEを設置することで、簡単に事業継続計画(BCP)や災害対策(DR)向けのシステムを低コストで構築できるようになります。

詳細は: <http://www.cmsinc.co.jp/news/2009/news2009101501.html>

日経ITPro様(システム運用管理部門週間アクセスNo1)を初めに日経BPnet様 BCN様、朝日新聞様、Yahoo!ニュース様 EnterpriseWatch様、キーマンズネット様など多くのメディアにご掲載頂きました。

ITpro		アクセスランキング	
システム運用管理		プラットフォーム	
昨日	週間	昨日	週間
2009年10月12日～10月18日			
1	小型NASとファイル・サーバー向けバックアップ装置, コアマイクロシステムズが発売		
2	デルが容量1.6TBバイトのLTO-4テープ装置を販売		
3	【変わるIT運用管理者の役割と責任】変わるIT運用管理者の役割と責任(前編)		



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

BCP(事業継続計画)

59.6%増

2012年までのデータ出荷容量の
年間平均成長率(CAGR)を
59.6%と予測 (IDC 2008)



にも関わらず

法令データ保管義務の施行、各種コンプライアンス
J-SOX、e文書法、内部統制、..



「**重要なデータ**のバックアップを
実施している」(野村総研2007)

81.8%

29.0%

「BCP策定済企業」
(野村総研2007)



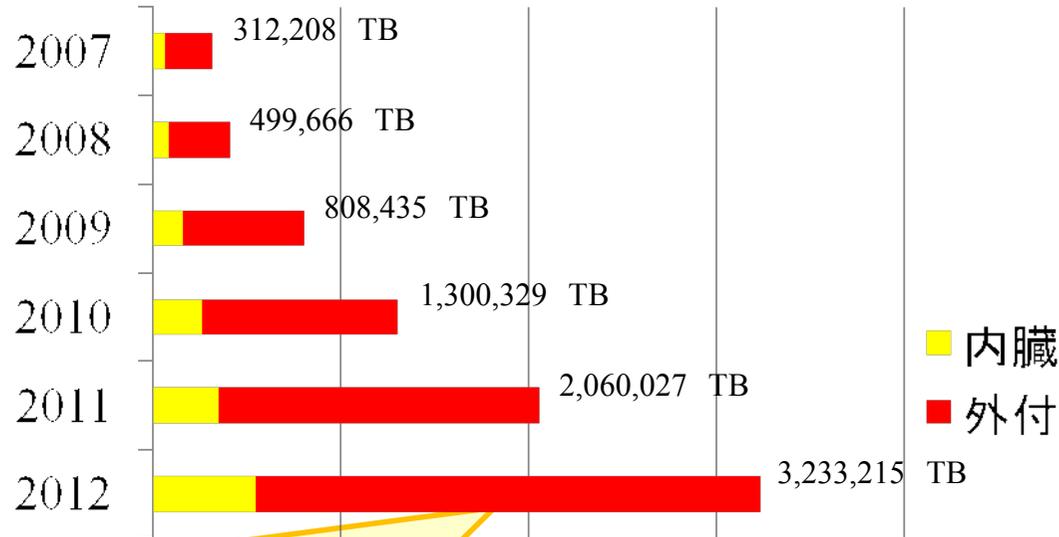
「発災時に目標とすべき事業復旧時間を、
絞り込んだ業務・サービスの重要性を踏ま
えて設定している」(野村総研2007)

13.6%



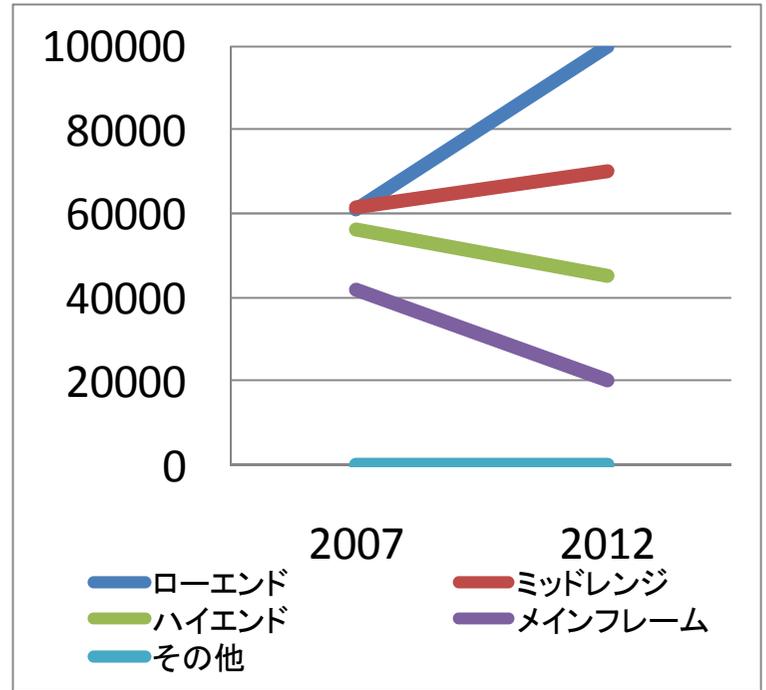
国内ディスクストレージシステム市場動向

国内ディスクストレージシステム市場出荷容量予測(IDC 2008)



特に増加が著しいデータ
 電子メールデータ
 画像データ
 研究開発データ
 複製データ(災害対策/バックアップ)
 長期保存データ(コンプライアンス対応)
 non-ITデータ(デジタル監視カメラなど)

国内外付ディスクストレージシステム市場クラス別売上額予測(IDC 2008)



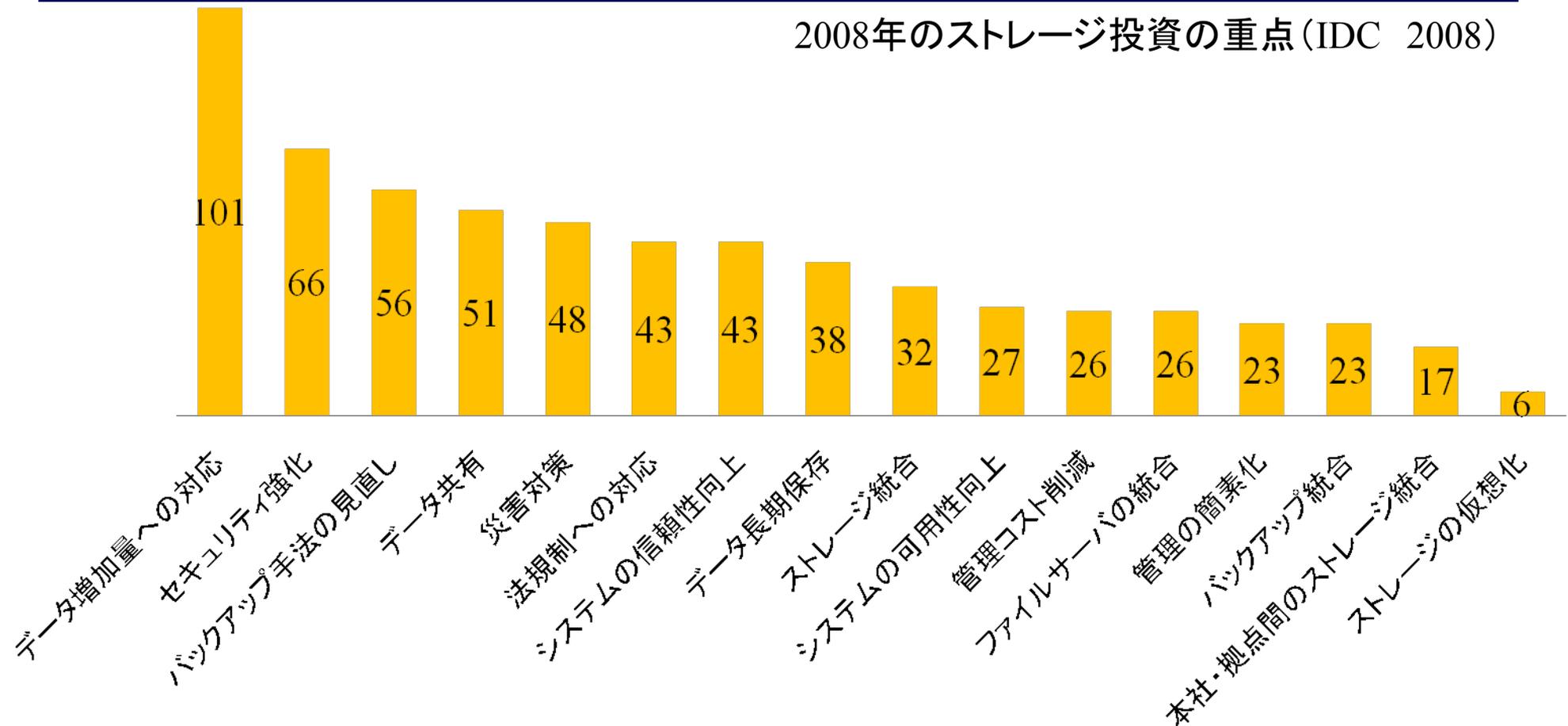
外付型ストレージの出荷容量は急増中！
ハイエンドストレージは売上減少へ、ローエンドストレージが増加傾向に。

⇒データ増加に対応するために、ローエンドストレージの追加を行った
 ⇒ストレージの低価格化により、中堅企業への普及が進行した



ストレージ購入理由調査結果

2008年のストレージ投資の重点 (IDC 2008)



データ量の純増や災害対策・コンプライアンス遵守によるデータ保管の長期化などにより、ストレージの投資機運が高まる。ストレージの増設により、バックアップウィンドウが許容限界に達し、バックアップ機能を搭載したストレージへのリプレイスが進む。

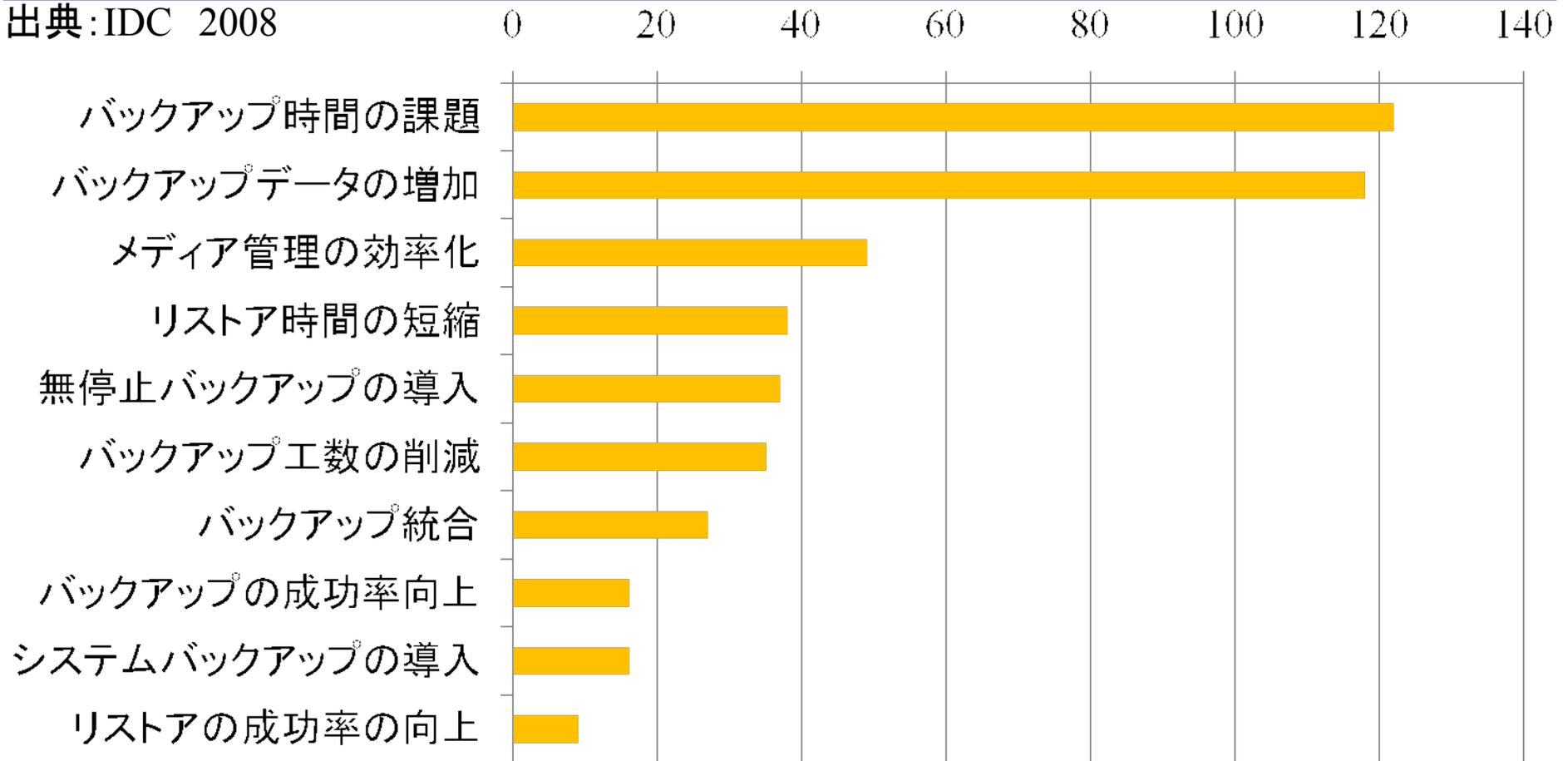


“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

データバックアップの課題

出典: IDC 2008



バックアップデータの増加や現在採用しているバックアップソリューションが旧式の技術であるため、バックアップウィンドウが長期化し、場合によっては翌日の業務時間に間に合わないことも。



各種コンプライアンスとガイドライン

- 『財務報告に係るIT統制ガイダンス』(J-SOX IT統制)...経済産業省
C.データのバックアップ
「障害や故障等によるデータ消失等に備え、財務情報や販売管理に関するデータはバックアップすること」
「バックアップ媒体からの復旧をテストすること」
- 『事業継続計画策定ガイドライン』.....経済産業省
災害、システム障害、外部からのアタックを含む
(4)業務再開とモニタリング
(5)復旧作業の実施



質問: サブアプリケーション毎に障害時に何時間で復旧できるか
ご存知ですか? また、予行練習をしていますか?
質問: DR(ディザスタ・リカバリ)対策は正しくできていますか?

BCP(事業継続計画)国内市場規模

2700億円

2000年以降、国内企業の事業継続管理やDR対策への取り組みは年々活発化する傾向にあります。過去最も多くの企業が事業継続計画策定、DR対策システムの構築を行った年となりました。(IDC 2008年12月発表)

不景気ですが..

2012年まで8.4%平均で成長



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

システムダウンによる損失金額

1008万円/時間

1時間当たりのシステムダウンが与える企業損失金額(日経BP2003)

影響範囲年商 × ダウンタイム (RPO+RTO) ÷ 年間営業時間
= システムダウンによる損失金額

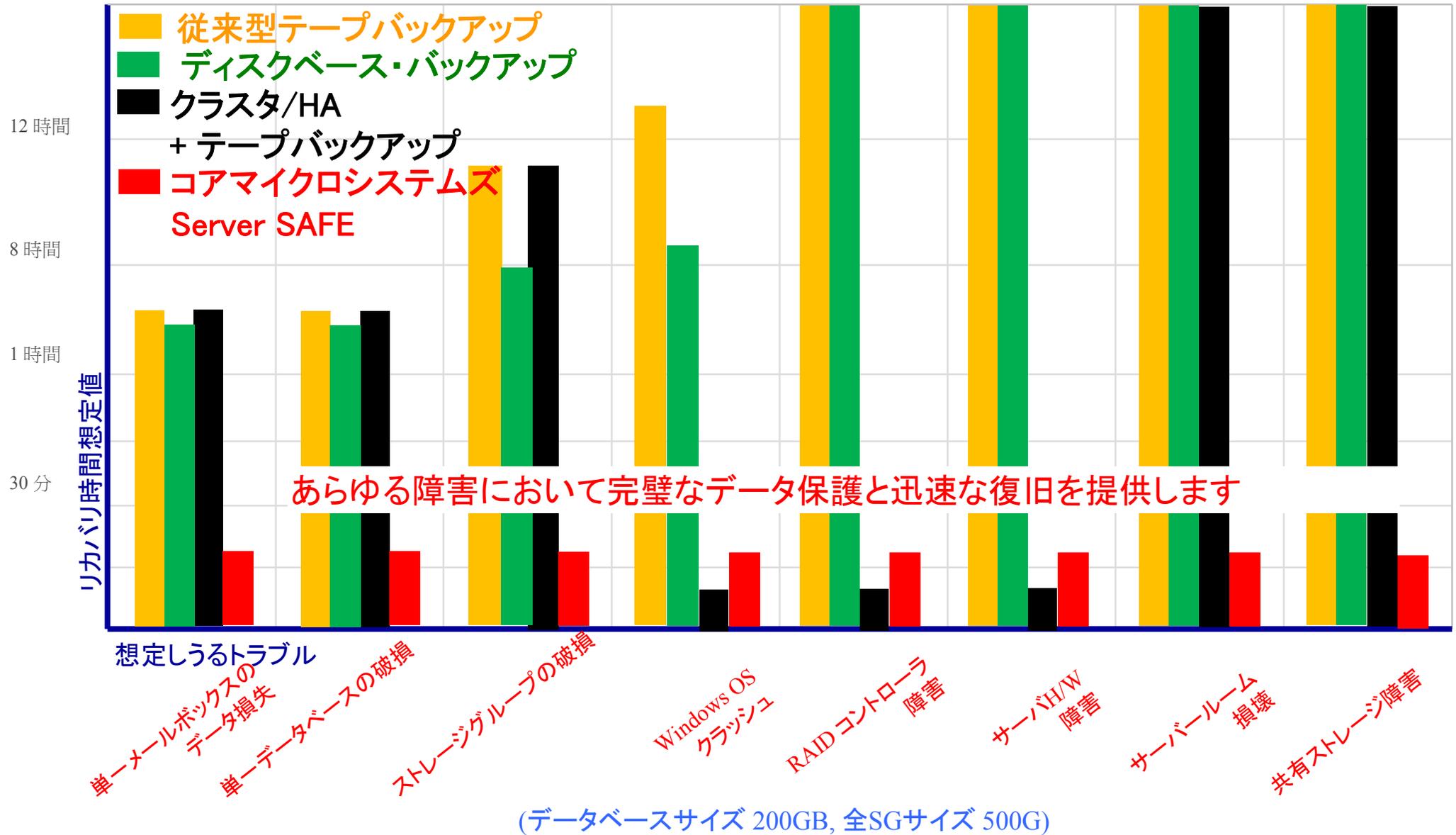
皆様のシステムのRPO/RTOは？

RPO (Recovery Point Objective) = 復旧時点目標

RTO (Recovery Time Objective) = リカバリ時間目標



各種データ保護システムで実現できるRTO比較





製品ラインアップ

SAFEシリーズ・ラインアップ

最短10分間のリカバリとベストエフォート回線での
遠隔レプリケーションを実現できる最強のCDP

Server SAFE



スナップショットエージェントによるアプリケーションサーバ世代バックアップ

複数のTera StationやLAN DISK等の小型NASから
Win/Linux等のファイルサーバを簡単バックアップ

Data SAFE



エージェントレス・ファイルサーバ統合バックアップ

PC SAFE

台数が多いWindowsデスクトップPCを
低コストでデータ&システム保護



エージェントフリー・デスクトップPC・フルバックアップ



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

SAFEシリーズ・ラインアップ

項目	Server SAFE	Data SAFE	PC SAFE
保護対象システム	Windows 2003以降 RedHat Linux 主要Unix 上記OS上の主要DB、 Exchange/Notes	小型NAS 各種ファイルサーバ ※CIFS及びNTLMv1サ ポートシステム	Windows XP/VISTA Windows 2000以降
保護対象領域	システム+データ領域	データ領域	システム+データ領域
バックアップ方式	4KB単位のブロックレ ベル差分バックアップ	ファイル更新検知方式	差分データ方式の高速 バックアップ
エージェントライセンス	15万円から	エージェントレス	エージェントフリー(無償)
接続上限値	4~255コネクション	256システム	20コネクション
バックアップ容量	2TB~250TB	4TB/10TB	3TB
世代数	32世代255世代	32世代	制限なし
RPO	1分~	1日	15分~
RAIDレベル	RAID6	RAID5/6	RAID6
価格(税抜)	168万円~	オープン価格	オープン価格



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.



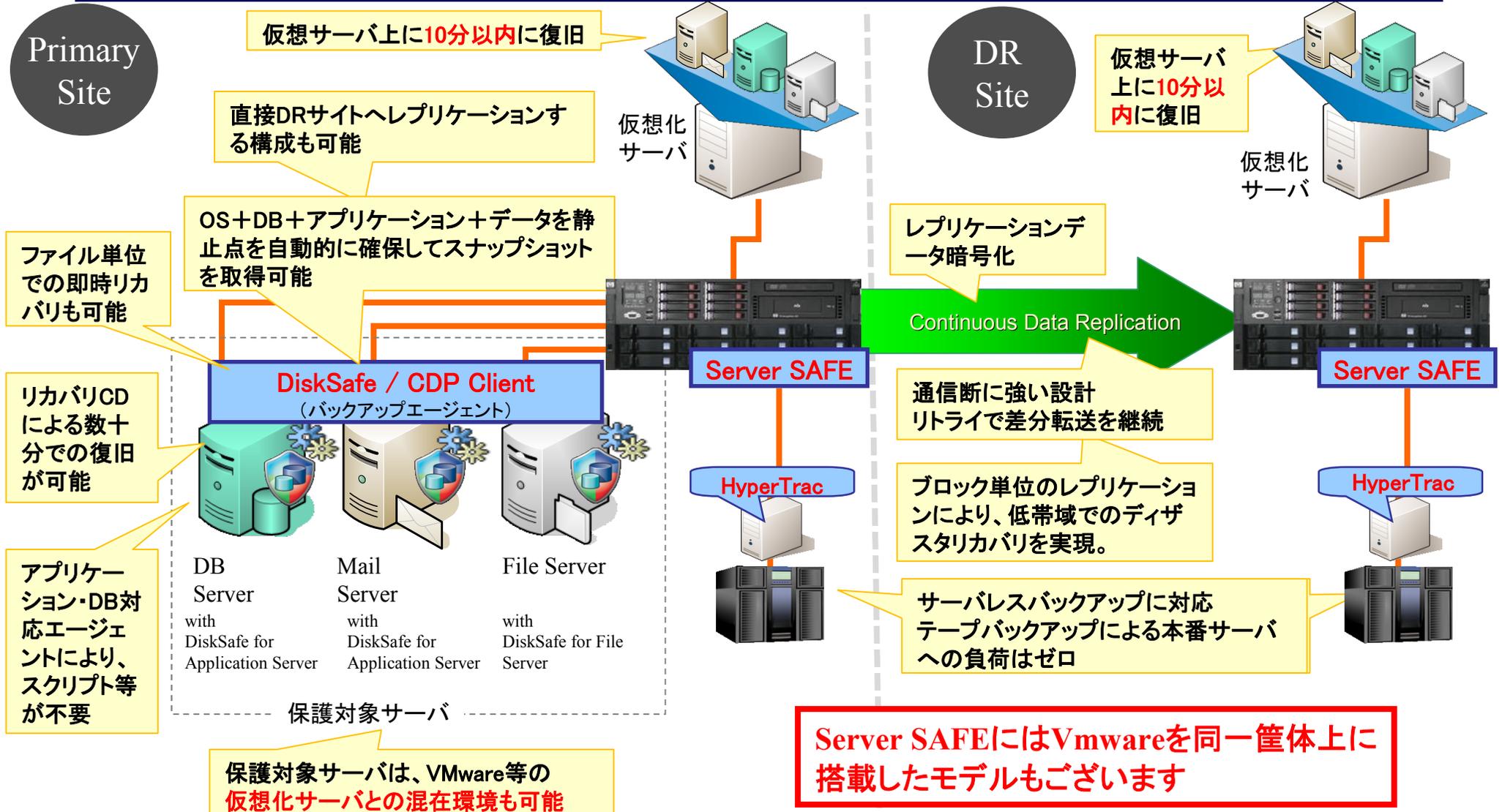
Server SAFE

特長

1. システム規模の大小にかかわらず、最短**10分以内**にDRサイト上で復旧可能
2. 保護対象サーバに**短時間**且つ**簡単に**復旧可能
3. バックアップ側のサーバ数を集約可能
4. 保護対象のシステムを**ベストエフォート回線等の低帯域ネットワーク**で遠隔レプリケーションが可能
5. **1TB以上のシステムバックアップには特に強い**



基本構成と特徴詳細



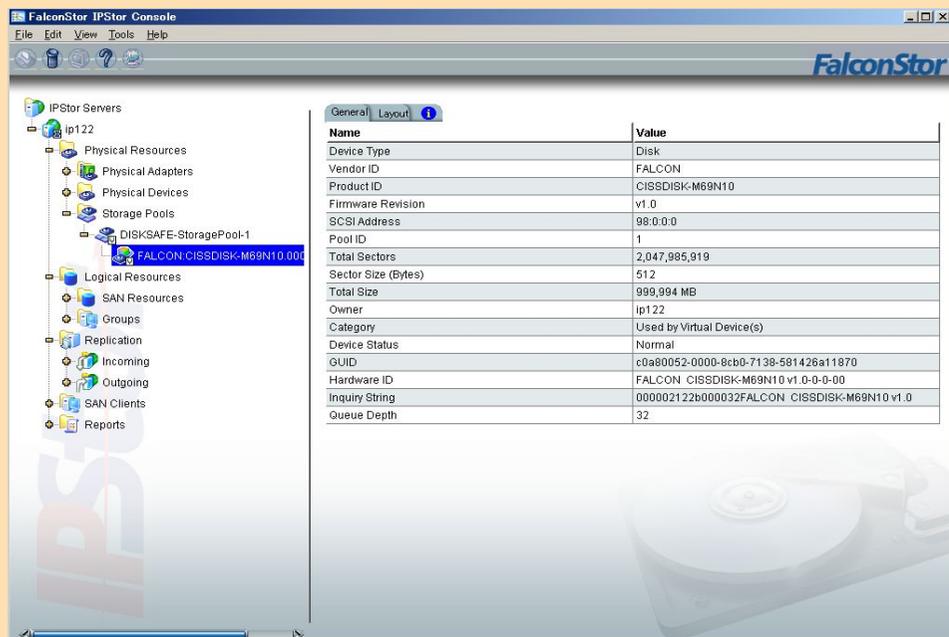
“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

Server SAFEの管理画面

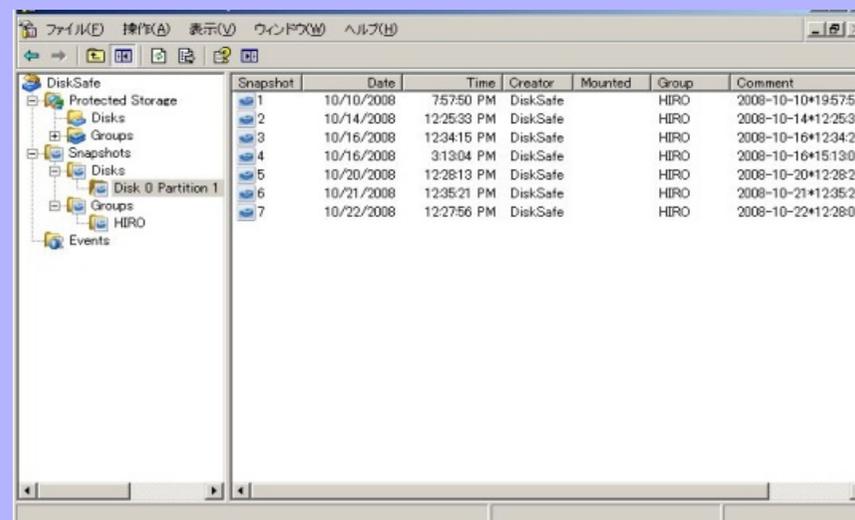
CDP コンソール

- ▶ GUIコンソールにてCDP Software/VAの設定を集中管理
- ▶ ウィザード形式の容易な操作

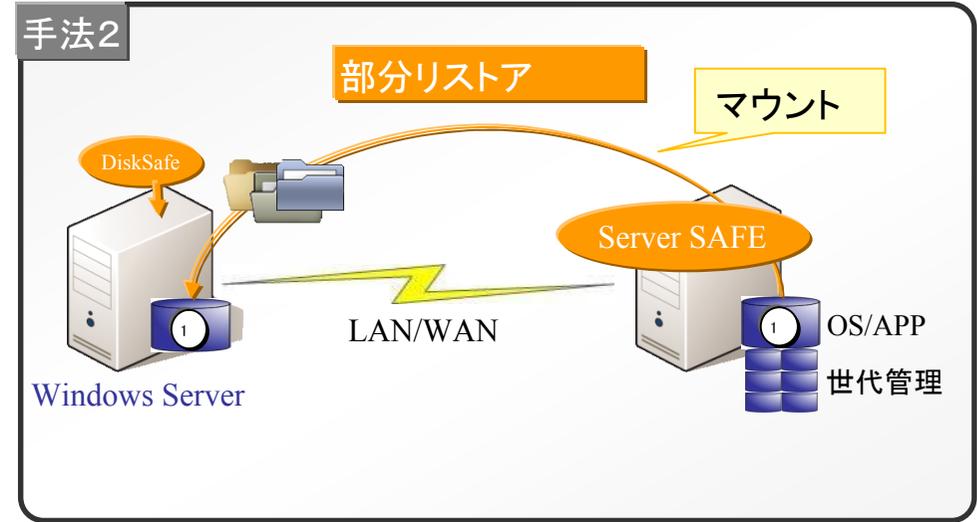
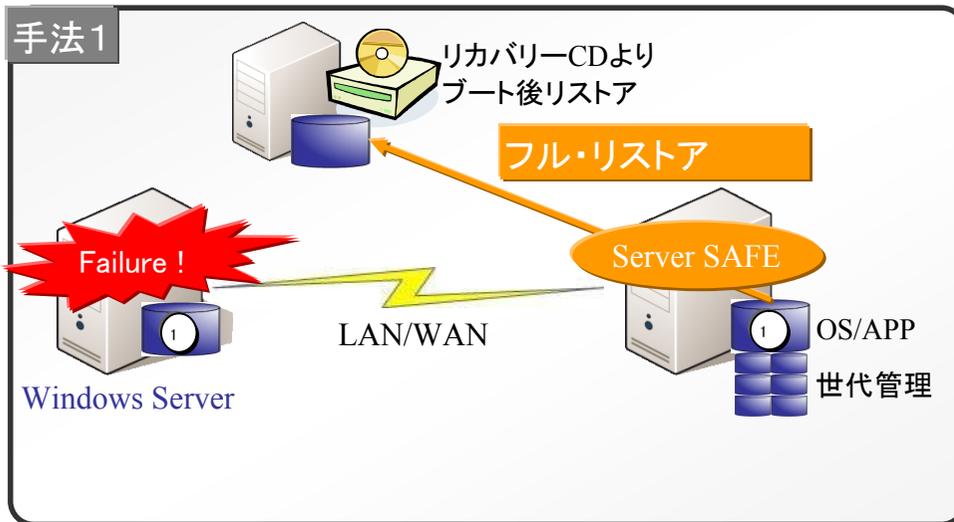


CDPエージェント(DiskSafe)+スナップショット・エージェント

- ▶ Windows 専用ソフトウェア
- ▶ FC and iSCSIプロトコルをサポート(CDPVAおよび仮想サーバ利用時は iSCSIのみ)
- ▶ システム復旧向け「リカバリCD」をご提供
- ▶ 主要アプリケーション用オンラインバックアップ・モジュールをご提供



保護対象サーバへのリストア手法



手法1:フル・リストアの場合

Windowsサーバに障害が発生し、システムの起動が出来ない場合(DiskSafeもしくはCDP Clientが動作しないレベル)、他の同一機種マシンまたは同一マシンにリカバリーCDを利用してフルリストアすることが可能です。(リカバリCDにはリストア用OSが含まれており、簡単にウィザード形式でリストアすることが可能です)

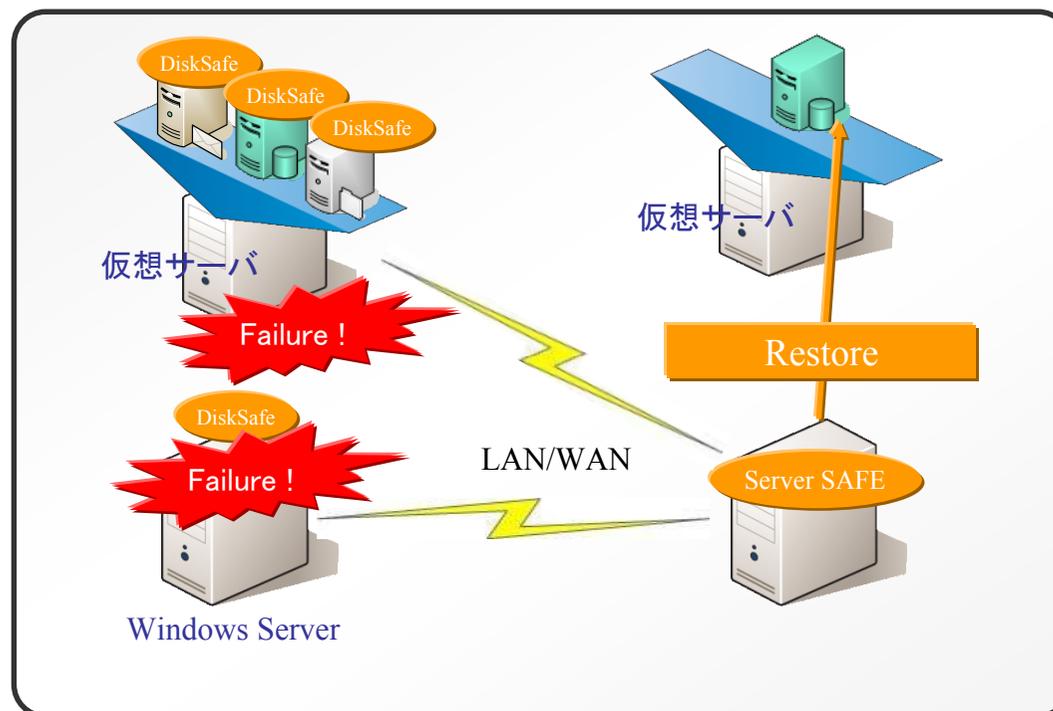
手法2:部分リストアの場合

Windowsサーバに障害が発生し、システムの起動が出来きる場合(DiskSafeもしくはCDP Clientが動作できるレベル)、DiskSafeもしくはCDP Clientにて世代を指定しスナップショットマウントを行なうことで、ファイル/ディレクトリ単位でのリストアが可能です。(差分データを検知し部分リストアを行います)

※データボリュームのフルリストアも可能



VMware上への仮想復旧の方法



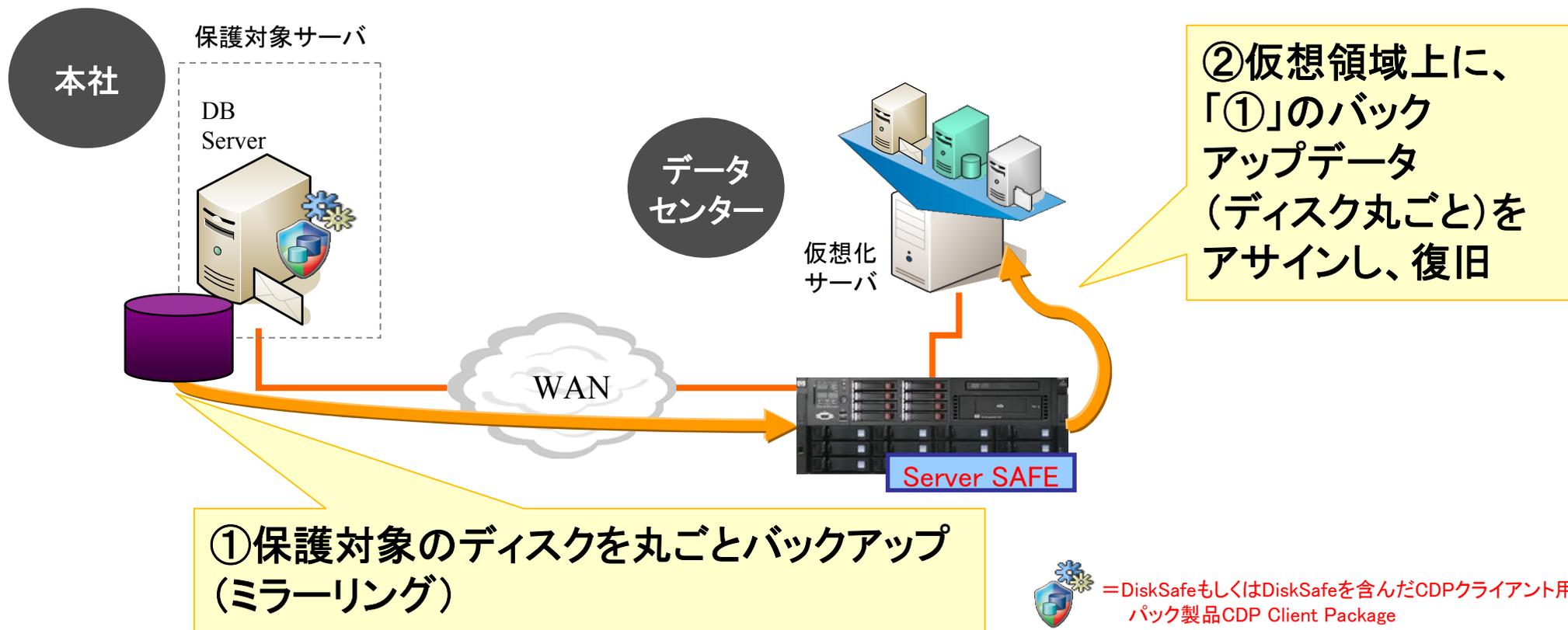
<リストア手順>

1. iSCSIまたはFiberChannelを経由してServer SAFE上のDiskSafeのミラーディスクもしくはスナップショットを仮想サーバに直接割り当てます。(作業時間3分)
2. 新しい仮想マシンを作成し、DiskSafeのミラーディスクもしくはスナップショットを仮想マシンに割り当てます。(作業時間2分)
3. P2Vの場合は、ドライバのコンバージョンをします。(作業時間5分)

VMware上の仮想マシンにリストアすることで、10分以内の仮想復旧が可能



何故、規模の大小に関わらず10分以内に復旧するのか？



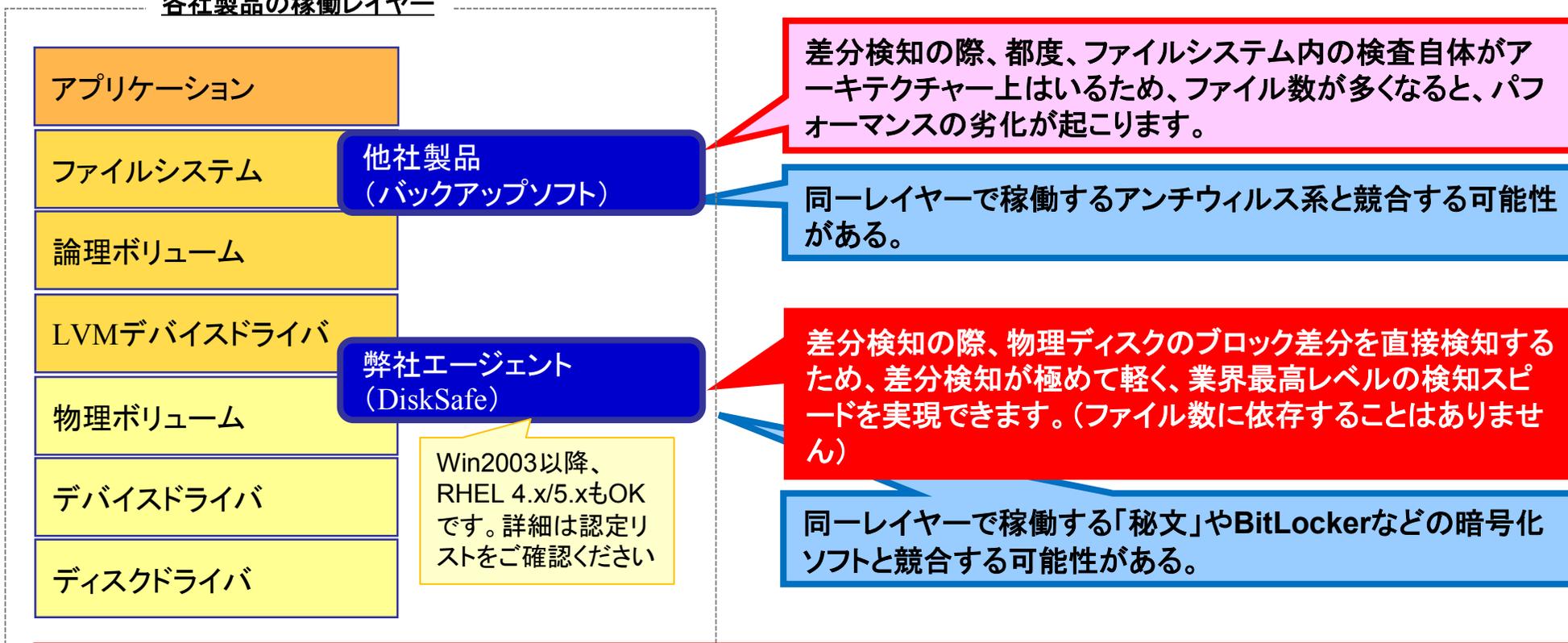
リストア時にデータ移動がありません。それ故に規模の大小に関わらず、10分以内に復旧させることができます。



バックアップ時の負荷が軽いです！

- 基本的なアーキテクチャーの違いから、差分検知のパフォーマンスに差がでます。また、データバックアップ時のCPU負荷が軽く(平均3~5%)、バックアップウィンドウも短縮できます。

各社製品の稼働レイヤー



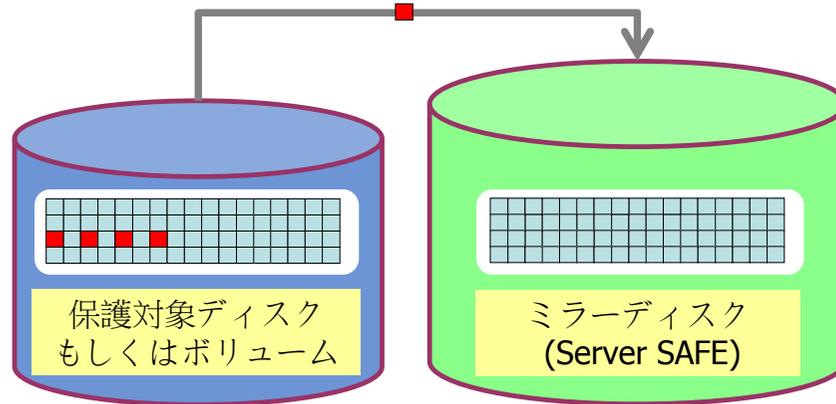
差分検出の際にファイルを検知せず、I/Oの差分のみで検出するため軽い！！



ネットワークの負荷が軽いです！

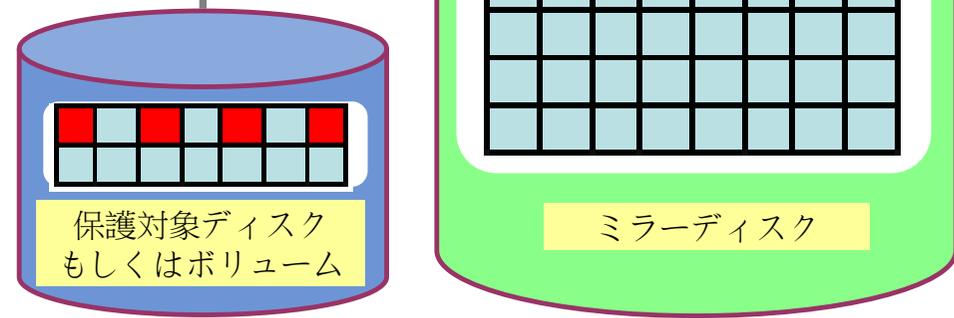
- 日々のデータ変更(更新)部分を**ブロックレベル(4~8K)**で検知し、その変更分のみをレプリケーション(転送)し保管します。

Server SAFE



4kのブロック単位で
レプリケーションするため
ミラーディスクの容量は
目安で1.2倍

他社製品:
ファイルレベル
ブロック差分



32kのブロック単位で
レプリケーションする場合
ミラーディスクの容量は
目安で3倍程度

ファイルレベルと比較し、ネットワークとサーバーへの負荷が軽減できるので、
低帯域ネットワークでローカル/遠隔レプリケーションすることが可能です。

※更に、通信断にも強く、リトライ後に続きからのレプリケーションが可能です。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

Server SAFEサイジング・イメージ

<Server SAFEの必要ストレージ容量計算式>

- Server SAFEサーバ配下のストレージ容量の計算式
下記計算式にて、サーバ配下のストレージ容量を計算することができます。

$$\begin{aligned} & (\text{Server SAFEサーバに接続される保護対象サーバの物理ストレージ容量の合計}) \times \\ & (1 + (\text{世代数} \times \text{前回のバックアップからの変更差分率})) \\ & = \text{Server SAFEサーバ配下の必要ストレージ容量} \end{aligned}$$

注意: 変更差分率は想定値になりがちであり、十分余裕をもったストレージの設計が必要になります。

<Server SAFEの必要ネットワーク帯域計算式>

- バックアップエージェント～Server SAFE間もしくはServer SAFE間で必要となるネットワーク帯域の計算式は下記になります。

$$\begin{aligned} & (\text{保護対象サーバServer SAFEのブロック単位での日時変更差分量}) \div \\ & (\text{1日のレプリケーション可能時間(秒)}) \\ & = \text{Server SAFEの必要ネットワーク帯域} \end{aligned}$$



バックアップエージェント(CDP Client Package/DiskSafe)について

1. DiskSafeについて

- リアルタイムもしくは1分間隔以上の定時バックアップを保護対象サーバ配下のストレージ(ディスク単位もしくはボリューム単位)に対してブロック単位で行うファルコンストアCDPのバックアップエージェント。
- Snapshot Agent for File Servers 1本
- 帯域制限機能あり
- ファイルベースでのリストアも可能

2. CDP Client Packageについて

- 下記のソフトウェアを同梱したCDPクライアントパックです。
(DiskSafeならびにSnapShot Agentの2点を個別購入した場合より割安となるように設定させていただいております)
- ✓ DiskSafe 1本
- ✓ Snapshot Agent suite 1本
- (DynaPath)
※CDP環境では日本未リリース・未サポート製品を対象にした製品の為、パッケージには含まれますが、利用することはありません。日本国内での利用としては無視いただけますようお願いいたします。

※ Snapshot Agent suiteが必要な保護対象サーバに使用します。



バックアップエージェントの動作環境

バックアップエージェント(CDP Client Package / DiskSafe)の動作環境は下記のとおりです。

- CDP-Client Package / DiskSafeの動作認証OSは下記の通りです。
 - Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition or Enterprise Edition (SP2, R2+SP2)
 - Microsoft Windows XP Home Edition or Professional(SP2以降)...32bitのみ
 - Microsoft Windows 2000 Professional, Server, or Advanced Server(SP4)...32bitのみ
 - Microsoft Windows Vista(全エディション)
 - Microsoft Windows Server 2008

- 各種Agentの動作対象は下記のとおりです。※個別バージョンは別途確認とさせていただきます。
 - Snapshot Agent for File Servers
 - Windows File System
 - Snapshot Agent suite
 - Windows File System
 - SQL Server 7/2000/2005
 - Oracle 8/9i/10g
 - Exchange Server 2000/2003/2007
 - DB2
 - Sybase
 - Infomix



Server SAFEスペックと価格(税抜き)

モデル名	Server SAFE Entry		Server SAFE Pro	Server SAFE Enterprise	
型番	CDP-T104GSS2	CDP-R2012GSS2	CDP-R2012GSV	CDP-R4012GSS-H	CDP-R4012GSS-I
ネットワーク インターフェース	GbE × 1	GbE × 2		GbE × 4	
接続方式	iSCSI			iSCSI / FC(オプション)	
HDD構成	SATA 1TB × 4	SATA 1TB × 5~	SATA 1TB × 7~	SATA 1TB × 9~	
RAIDレベル	RAID6+スペア				
容量	2TB	2TB(~4TB)	4TB / 8TB	6TB ~ 250TB	
世代数	32世代	32 / 255世代	255世代		
接続数	4 ~ 255		255	255(※1)	
対応OS(※)	Windows OS(2000 / XP 32bit / VISTA 32・64bit/ 2003 32・64bit / 2008 32・64bit)			Windows、MacOS、Linux、VMWare、Solaris、HP-UX、AIX、Tru64、NetWare、SGI IRIX 他	
対応 アプリケーション	Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server、Oracle、Lotus Domino 他				
冗長化 管理方式	HDD、FAN	HDD、電源、FAN GUI(システム、RAID、サーバ)			
消費電力	430W	750W		750W+436W	970W+436W
所要電源	AC100-240V 50/60Hz				
サイズ	タワー型	EIA 19" 2U		EIA 19" 2U + 2U ~	
寸法	200(W) × 610(D) × 432(H)	448(W) × 698.81(D) × 87.5(H)	448(W) × 717.1(D) × 87.6(H)	448(W) × 698.81(D) × 175(H)	
重量	約22.7kg	約19.22kg	約16.8kg	約45.62kg	約56kg
本体価格(税抜)	168万円	オープン価格			
保証	センドバック1年、オンサイトオプション				

※対応OSの詳細や接続方法に関しては別途ご相談ください。

※上記以外にバックアップエージェントが必要になります。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

事例：東京建物不動産販売様

～ファイルサーバを中心とした24TBのシステムバックアップ&迅速・簡単フルリストア～



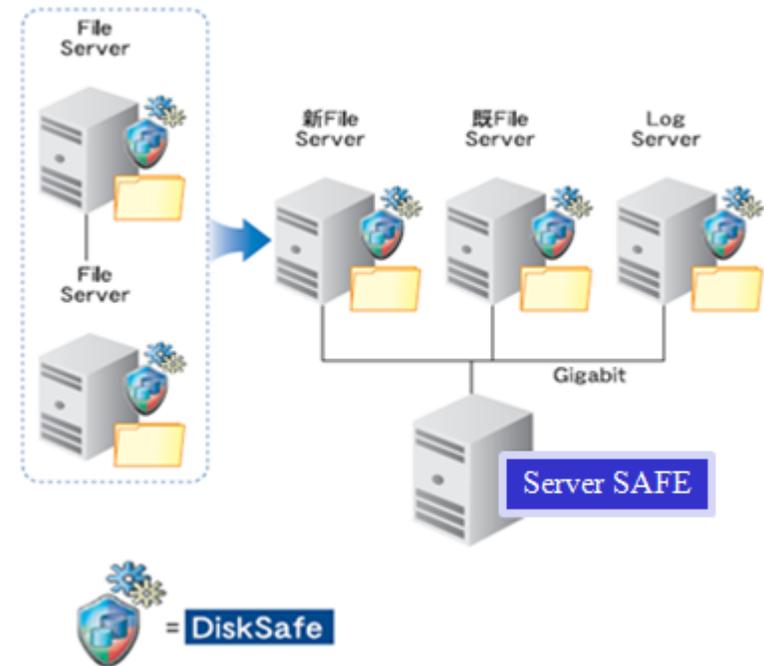
東京建物不動産販売
経営企画部システム管理グループ
グループリーダー
塩川克明氏



会社名 : 東京建物不動産販売株式会社
資本金 : 31億円
採用製品 : Server SAFE
用途 : ディザスタ・リカバリ

総合不動産流通企業である同社は大量の顧客情報と機密情報を保持しており、安全かつ高信頼な運用管理体制をServerSAFEによるバックアップシステムで実現しました。採用理由は、システムに強い社員でなくでも誰でも簡単に扱える操作の容易性と万が一の復旧が非常に簡単かつ短時間で実現できることです。「リカバリの予行練習で簡単に且つ短時間でフルリストアができる様子は感動的でした」と塩川氏。従来のテープバックアップを採用していた時は一晩かかっていたバックアップが、ServerSAFE採用後はノンストップによる短時間バックアップが実現でき、且つ万が一のフルリストア時も簡単操作で短時間で復旧できることを高く評価しています。

システムイメージ 保護対象サーバ



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.



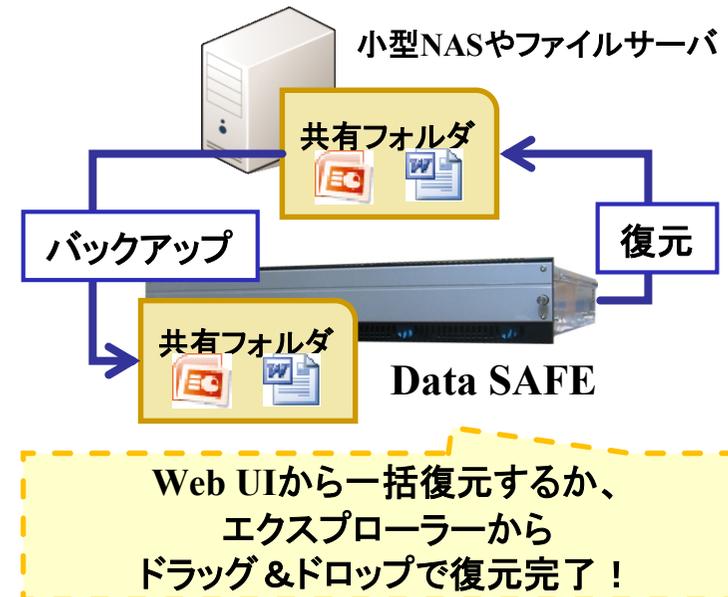
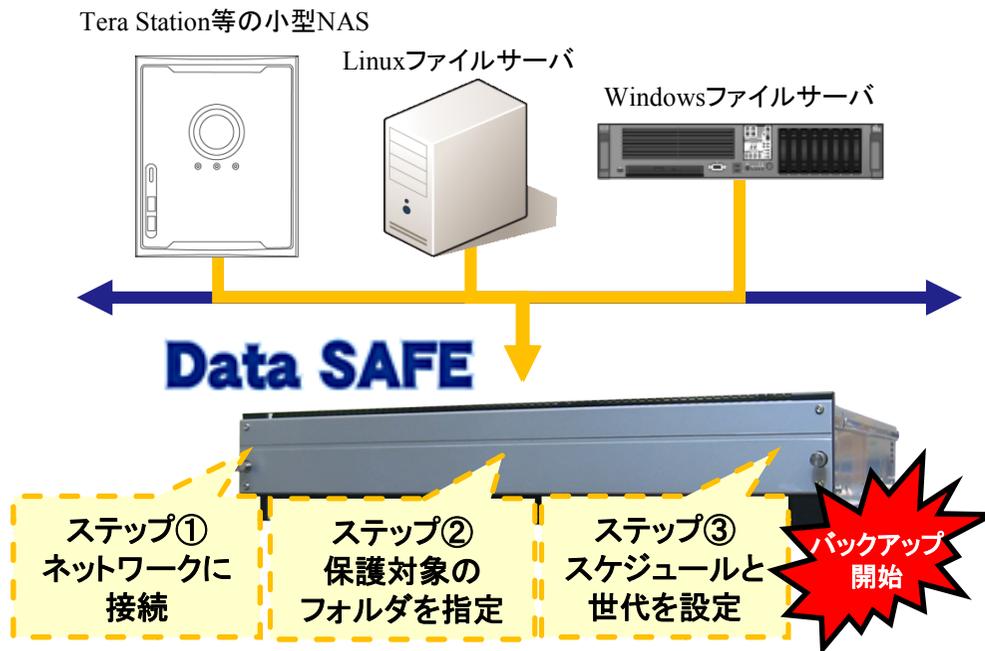
Data SAFE

Data SAFEとは

業界で唯一複数のTera StationやLAN DISK等の小型NASからWin/Linux等のファイルサーバをエージェントレスで統合バックアップできるアプライアンスです。

エージェントレスで、簡単接続！

マウス操作で簡単復元！



※CIFSプロトコルであることが前提です。



こんなお客様に最適です

1. 複数のTera StationやLAN DISK等の小型NASをバックアップしたい
2. 部門のWindowsファイルサーバなど、バックアップを取っていないファイルサーバがある(重要なデータであってもバックアップをしていない 18.8%:2007年野村総合研究所)
3. 簡単で低コストなバックアップ・ソリューションを探している
4. うっかり消してしまったファイル復元の作業が割りと発生している
5. ファイルサーバにはマイクロソフトOffice系のデータが多い(マイクロソフトOffice は上書き保存もフル書き換えになります⇒低コストなファイルレベルのバックアップ手法で十分です)

手間と予算をかけずにバックアップを取りたい方に最適です



Data SAFEのバックアップ手法:ファイル更新検知方式

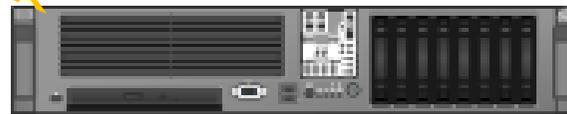
①フォルダ単位でバックアップスケジュールと世代を設定します

②初回はフルバックアップをします。

③次回からのバックアップは前回から更新されたファイルのみをバックアップします

世代数はファイル単位での32世代まで設定が可能です。

保護対象のファイルサーバ



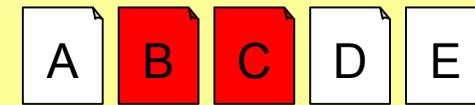
Data SAFE



バックアップスケジュール②では、更新されたファイル「B」と「C」がバックアップされます。バックアップスケジュール③では、更新されたファイル「B」と「E」がバックアップされます。

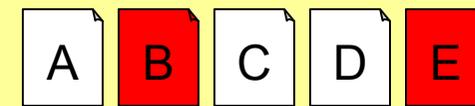
バックアップスケジュール①

保護対象フォルダ



バックアップスケジュール②

保護対象フォルダ



バックアップスケジュール③

 = 更新されたファイル

Data SAFEの設定イメージ1

バックアップスケジュールの追加

実行日時

毎日 0時 ---分---

スケジュールを追加

バックアップ結果の確認

バックアップレポートを表示

バックアップレポートをクリアします

コンピュータ名: NTSERVER (必須)

IPアドレス: 192.168.0.102 (必須)

共有フォルダ名: 営業 (必須)

認証ユーザー名: hirose

パスワード: ●●●●

認証ドメイン名: tokyo.cmsinc.co.jp

ユニコード 通信時の文字コードとしてユニコードを使用する

接続

バックアップフォルダの指定

フォルダ階層	フォルダ名	コントロール
第1階層	全て	決定
第2階層	全て	決定
第3階層	APP	決定
第3階層	au W05K CD-ROM	決定
第3階層	CDP	決定
第3階層	mail	決定
第3階層	Old	決定
第3階層	イラスト写真	決定
第5階層	カタログデータ	決定
第5階層	パートナー向け価格表	決定
第5階層	マーケティング	決定
第6階層	五十嵐データ	決定
第6階層	共有フォルダ - ntserver	決定
第6階層	福川テンボラ	決定
第6階層	北山データ	決定
第6階層	吉田引継データ	決定
第6階層	営業書庫	決定
第6階層	密着DATA	決定
第6階層	展示会イベント	決定
第6階層	福島引継資料	決定

クリア

設定中はブラウザのリロード(再読み込み)を実行しないでください

DataSAFEにログインし、
・スケジュールを設定

・バックアップをとる共有
フォルダにログインするための
情報を設定

・バックアップ対象のフォルダ
を選択

Data SAFEの設定イメージ2

バックアップスケジュール

実行日時	毎週-日曜	1時	1分
世代管理	1世代<最新データのみ>	保存する	
削除ファイル	1世代<最新データのみ>		
容量制限	2世代		
	3世代		
	4世代		
	5世代		

設定する

・世代数などを確認

後は設定ボタンで作業は完了です

バックアップスケジュールリスト

有効なスケジュール	バックアップ対象マシン	コントロール		
毎日:00時00分	MARZ	無効化	修正	削除
毎週-日曜:01時01分	NTSERVER	無効化	修正	削除

スケジュールの変更を反映

最大で10スケジュールまで設定可能です

設定した内容はバックアップスケジュールリストに追加され、順次追加されます。

構成イメージ

保護対象サーバの接続数は理論値上は無制限（想定数はData SAFE一台につき15台程度まで）

バックアップスケジュールや世代数は上位6階層までのフォルダに設定が可能です。

CIFSサポートシステムであることが前提になります。

Tera Station等の小型NAS



Linuxファイルサーバ



Windowsファイルサーバ



Data SAFE

遠隔地定時バックアップ

Data SAFE



WAN

当該機種のバックアップ容量上限値までバックアップが可能です。上限値を超えた場合は電子メールによるアラートが送信されます。容量・世代数上限値を超えたバックアップはできません。

片方向でのバックアップが標準になります。但し、ご要望に応じ双方向バックアップも可能です。その場合は、コアマイクロシステムズまで、事前にお申し付けください。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

Data SAFEのスペック

	Data SAFE 4TBモデル	Data SAFE 10TBモデル
型番	DS-B105GS	DS-R2012GS
保護対象システム	小型NAS、各種ファイルサーバ ※CIFS及びNTLMv1サポートシステム	
保護対象領域	データ領域	
バックアップ方式	ファイル更新検知方式	
エージェントライセンス	エージェントレス	
接続可能システム数	256	
バックアップ容量	4TB	10TB
世代数	32世代	
RPO	1日	
遠隔地定時バックアップオプション	標準搭載	
ネットワークインターフェース	GbE × 2	
接続方式	CIFSプロトコルベース	
HDD構成	SATA II 1TB × 5台	SATA II 1TB × 12台
RAIDレベル	RAID5	RAID6
冗長化	HDD	HDD, FAN, 電源
管理方式	Web	
電源	300W シングル	800W 二重化
所要電源	AC100~240V 50/60Hz	
寸法	178(W) × 330(H) × 280(D)	440(W) × 710(D) × 88(H)
重量	約11kg	約26kg



Data SAFEの価格表

DataSAFE 価格表 / 5月

平成22年5月1日 Ver1.0 コアマイクロシステムズ株式会社

■製品本体価格表

製品名	SKU	バックアップ容量	RAID構成	本体価格(※1)		ハードウェア仕様			
				標準価格	お仕切り	形状	電源	重量	サイズ(W x H x D)
Data SAFE 4Bモデル	DS-B105GS-2/A1000x5	約4TB	RAID5	オープン	-	ボックス型	300W シングル	約11kg	178 x 330 x 280
Data SAFE 10TBモデル	DS-R2012GS-2/A1000x12	約10TB	RAID6	オープン	-	2Uラック型	700W 二重化	約26kg	430 x 88 x 650

※1 表示価格にアプライアンスハードウェア/ソフトウェアライセンス/送料を含みます。表示価格に消費税は含まれません。

※ 出荷日より一年間のセンドバック保証が含まれます。

■オンサイトハードウェア保守(ソフトウェア保守を含む)価格表

製品名	SKU	標準価格(※2)	お仕切り	備考
Data SAFE 4TBモデル オンサイトハードウェア保守				
単年(初年度から3年目まで)	DS-B105GS-2-MS1	オープン	-	初年度から3年目までの単年度購入の保守サービスです。
単年(4年目)	DS-B105GS-2-MS4	オープン	-	DS-B105GS-MS1、DS-B105GS-MT3ご購入のお客様の4年目の保守サービスです。
単年(5年目)	DS-B105GS-2-MS5	オープン	-	DS-B105GS-MS4、DS-B105GS-MT4ご購入のお客様の5年目の保守サービスです。
3年バック	DS-B105GS-2-MT3	オープン	-	初年度から3年目までの一括購入の保守サービスです。
4年バック	DS-B105GS-2-MT4	オープン	-	初年度から4年目までの一括購入の保守サービスです。
5年バック	DS-B105GS-2-MT5	オープン	-	初年度から5年目までの一括購入の保守サービスです。
Data SAFE 10TBモデル オンサイトハードウェア保守				
単年(初年度から3年目まで)	DS-R2012GS-2-MS1	オープン	-	初年度から3年目までの単年度購入の保守サービスです。
単年(4年目)	DS-R2012GS-2-MS4	オープン	-	DS-R2012GS-MS1、DS-R2012GS-MT3ご購入のお客様の4年目の保守サービスです。
単年(5年目)	DS-R2012GS-2-MS5	オープン	-	DS-R2012GS-MS4、DS-R2012GS-MT4ご購入のお客様の5年目の保守サービスです。
3年バック	DS-R2012GS-2-MT3	オープン	-	初年度から3年目までの一括購入の保守サービスです。
4年バック	DS-R2012GS-2-MT4	オープン	-	初年度から4年目までの一括購入の保守サービスです。
5年バック	DS-R2012GS-2-MT5	オープン	-	初年度から5年目までの一括購入の保守サービスです。

※2 表示価格に消費税は含まれません。

※ 上記の保守サービスの購入は任意です。但し、本体購入時に当該保守サービスを購入されない場合は、途中加入ができませんのでご注意ください。

※ 上記の保守サービスの継続を停止された場合、再開することはできません。あらかじめご了承ください。

※ 保守サービスの内容は下記となります。

受付	: 24H 365D	(TEL/E-Mail/Fax)
切分対応	: 営業日内9:00-17:00	(E-Mail/Fax)
オンサイト駆付	: 最長翌々営業日内9:00-17:00	

※ 保守未加入時に先出しセンドバックをご希望される場合、別途費用が発生致します。

※ 沖縄県・離島・一部地域は保守内容も含め、別途ご相談となります。

※ 2010年5月以前の価格での追加保守更新は上記価格が適用されますので、ご注意ください。

※ その他、当該保守サービスの詳細については約款を参照ください。

※ 本保守サービスは最長で5年までの購入が可能です。5年以上をご希望の場合は、Biz Storパートナー様とのビジネスモデルの合意が必要となります。個別に弊社窓口までご相談ください。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

比較資料

製品名	Data SAFE	ARCServe	BackupEXEC
機能比較			
エージェントインストール	なし	あり	
バックアップポリシーの決定、および設計/導入	簡易	IT管理者によるコンサルが必要 (=同ソフトに慣れていないと難しい)	
バックアップ方式	ファイル単位 更新検知	アーカイブビット更新検知/更新処理	
アプリケーションバックアップ	×	○	
OSバックアップ	×	○	
TeraStation等の小型NASバックアップ	○	×	
新OS対応	OS側のパラメータ設定により可	ソフトウェアのバージョンアップが必要な場合も	
管理用画面	ブラウザによる WEBインターフェース	専用アプリケーションをインストール	
その他比較			
トラブル時の対応	ワンストップサポート	E/U様にてハードとソフトの障害切り分けが必須	





PC SAFE

PC SAFEとは

クライアントPCのデータやシステムが壊れた時、
どのようにPCを復旧させますか？
どれだけの時間がかかりますか？

PC SAFEは誰でも簡単に操作ができる
PC向けバックアップ・アプライアンス製品です。



PC SAFEの特長

1、早い！



人的復旧作業は、1・2・3ステップで、たったの3分！

2、簡単！



分かりやすく、シンプルなGUIで操作が簡単！高い専門知識が無くても大丈夫！

3、安い！



アプライアンス製品(ソフトもハードが一体化製品)だからこそ出来る、
ライセンスフリー！対象PCが増えても追加ライセンス費用は掛りません。

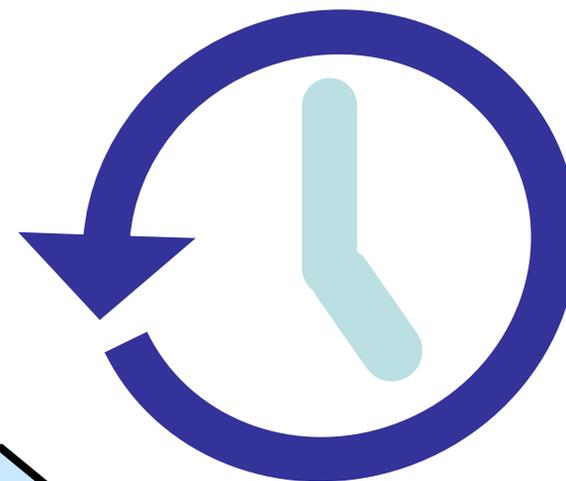
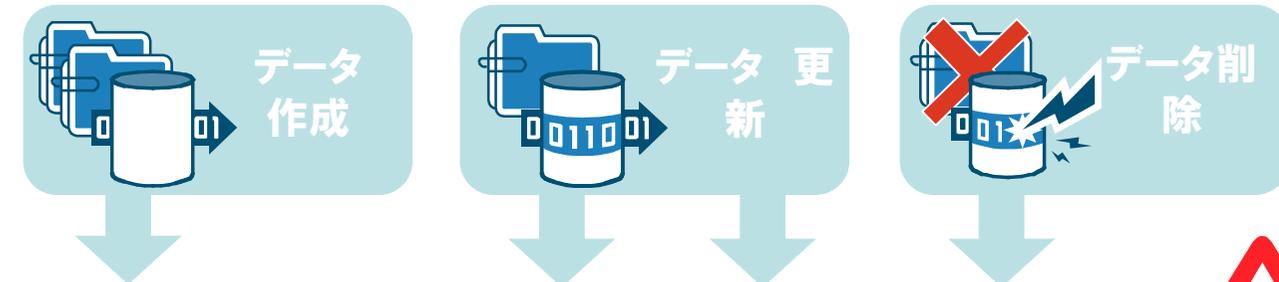


リアルタイムバックアップ（連続差分バックアップ）

障害発生直前の正常なデータまで巻き戻す

『戻したいポイント』に、迅速にシステムデータをリカバリ

リアルタイムでブロック単位の差分をバックアップ



 任意の時点にデータを巻戻し

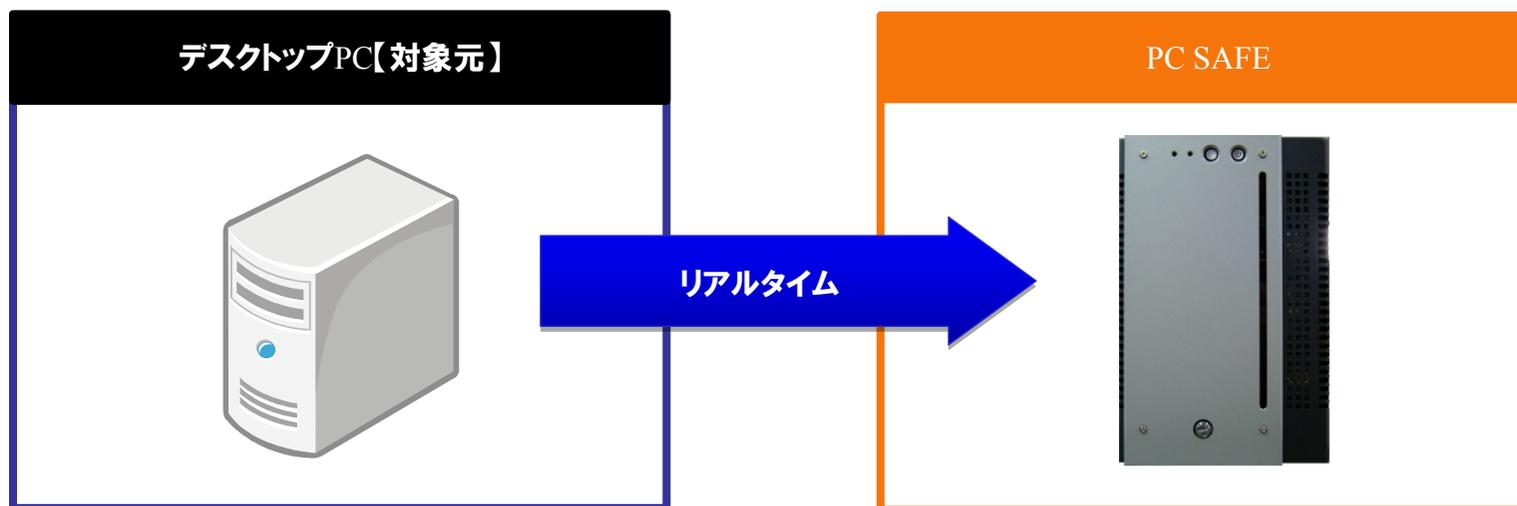


PC SAFEの用途

こんなニーズに
応えます！

- 障害直前の状態にデータを戻して、ユーザの手戻りを減らしたい。
- 復旧作業で事業がSTOPしてしまう時間を少なくしたい。

リアルタイムでシステム & データを守るから、障害直前までを保護出来ます



【導入が簡単】

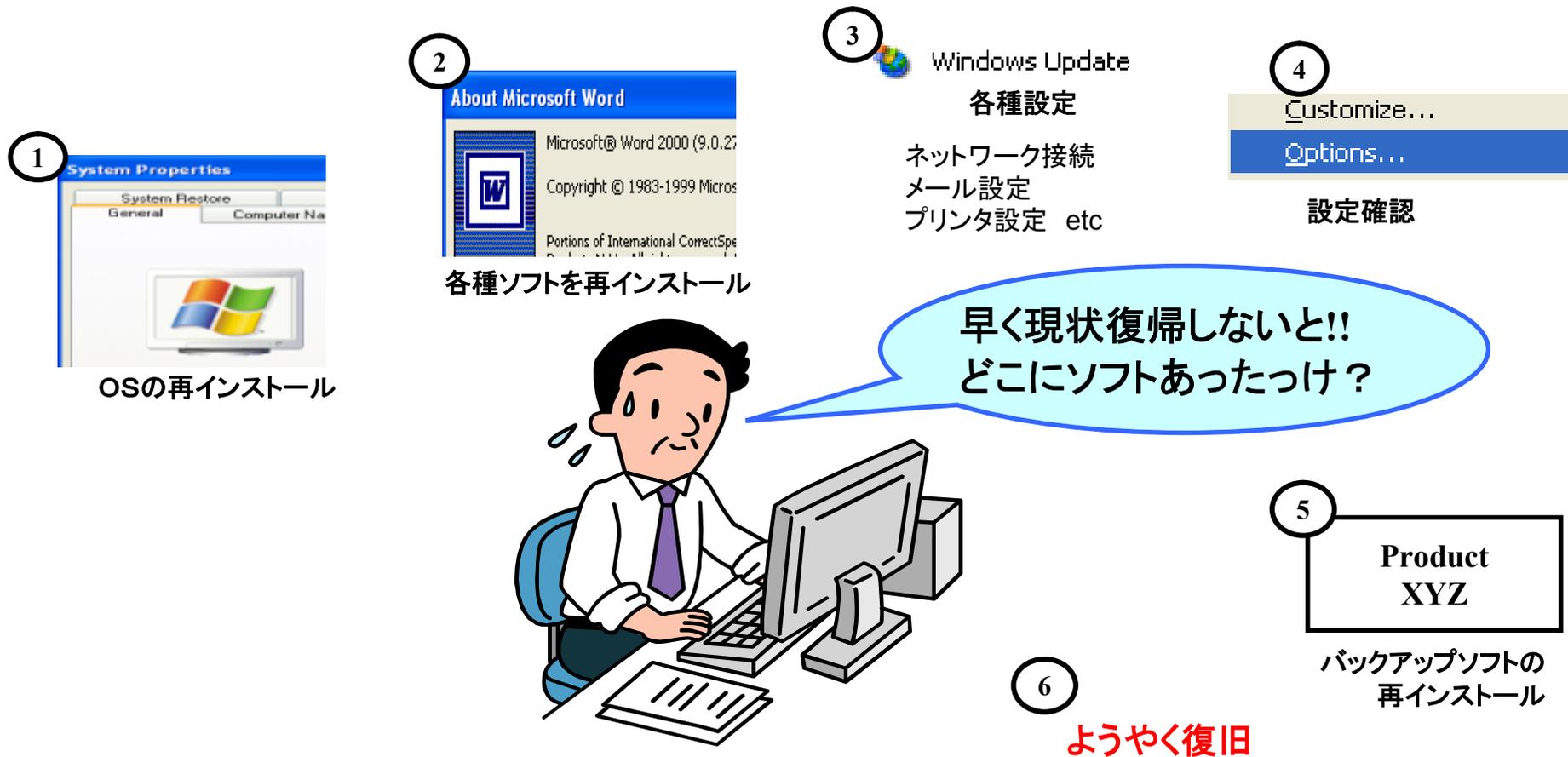
【運用が簡単】

【復旧が簡単】



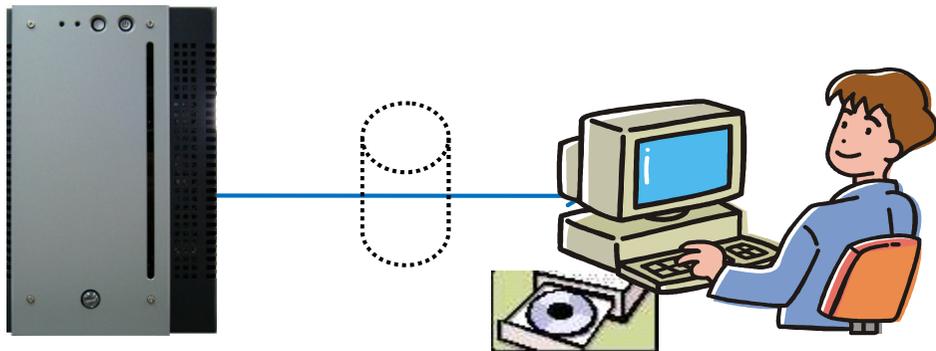
通常の復旧手順

所要時間(人的作業): **約 6 時間** / PC (または、もっと掛かる場合も)



PC SAFEでの復旧方法

所要時間(人的作業): わずか**3分!!**



作業はたったの**1-2-3ステップ**

- (1) **PC SAFEのIPアドレス**
- (2) **クライアント名とパスワード**
- (3) **復旧ポイント**を選択。



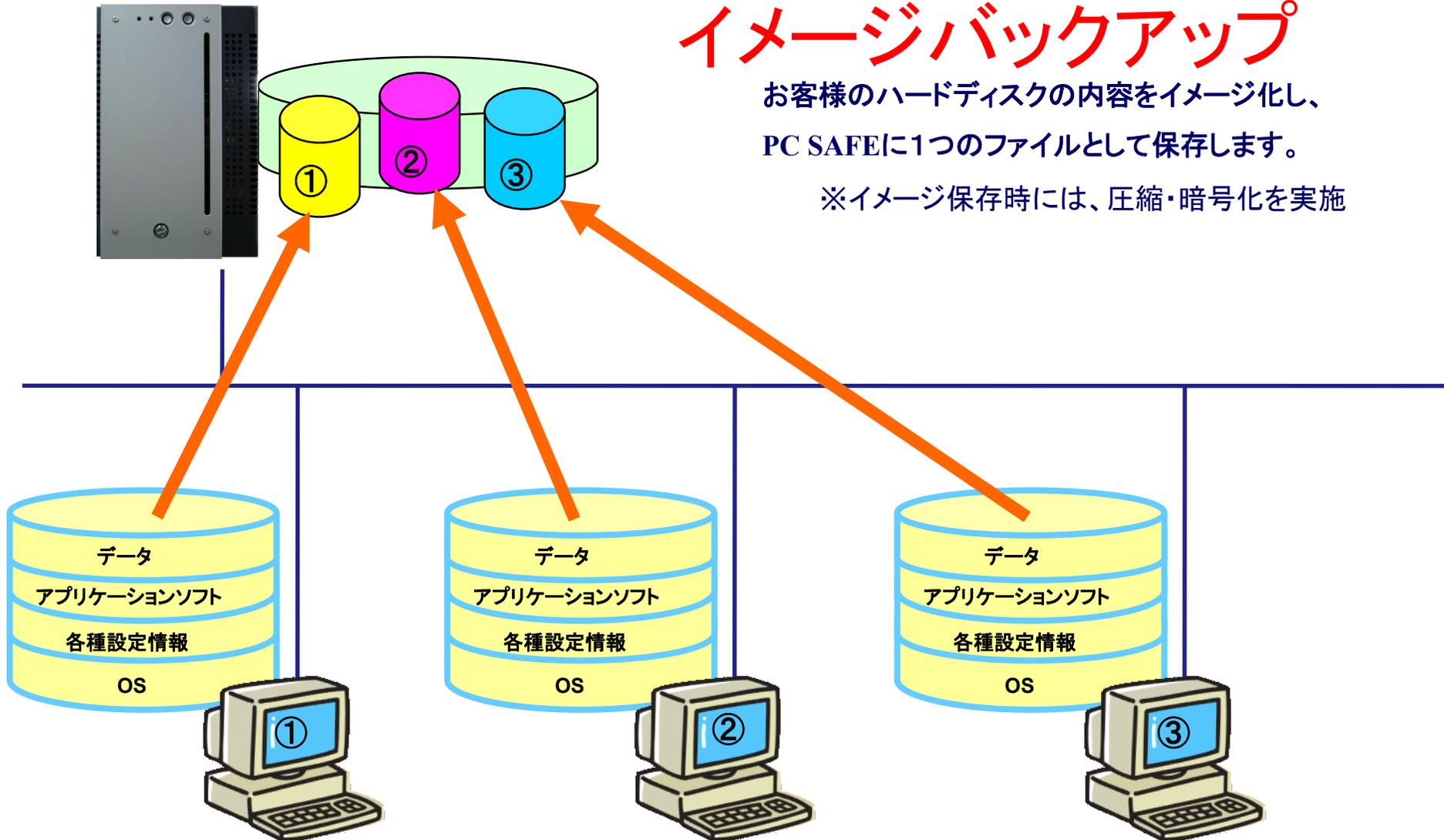
あとは復旧するのを待つだけ!!

バックアップイメージ

イメージバックアップ

お客様のハードディスクの内容をイメージ化し、
PC SAFEに1つのファイルとして保存します。

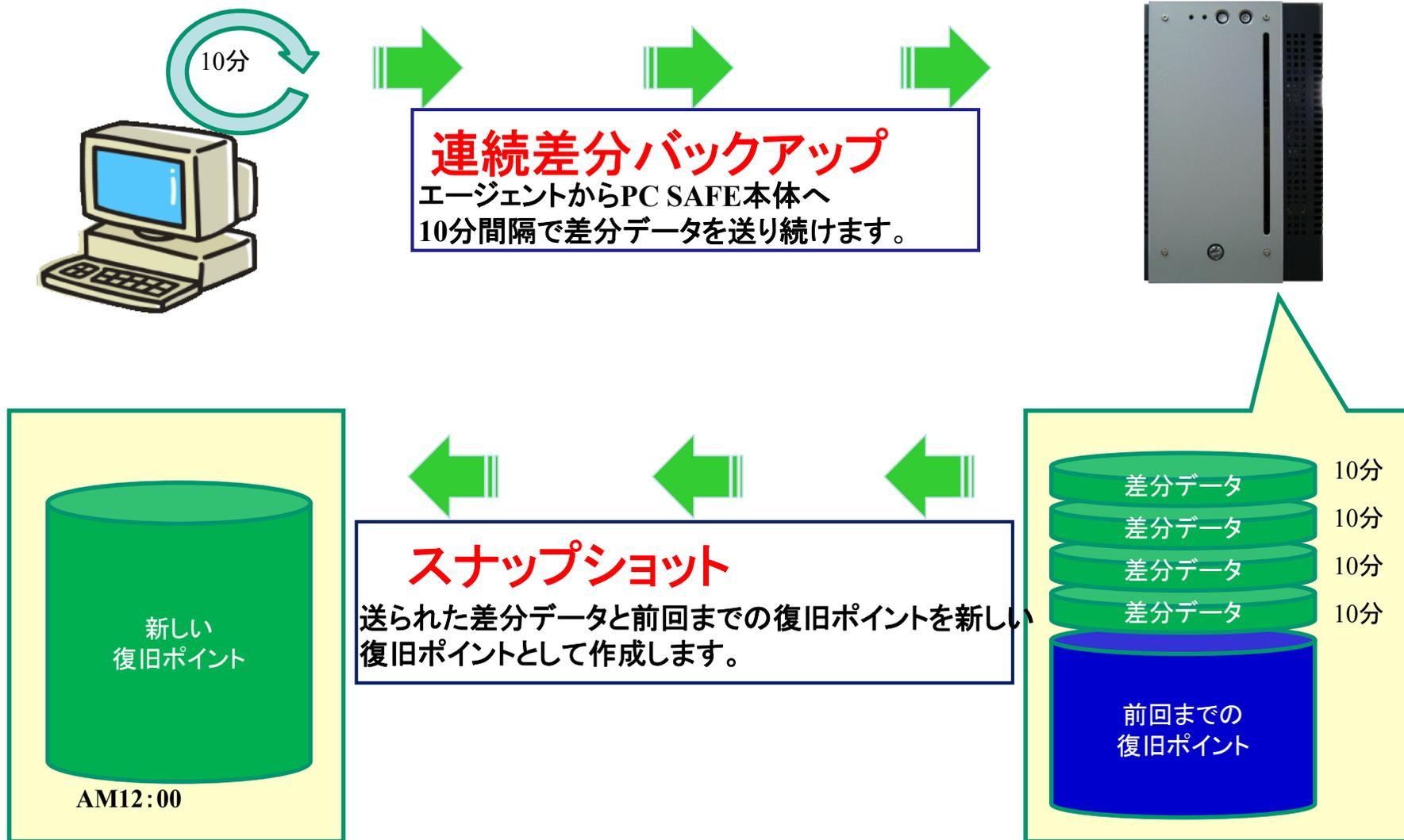
※イメージ保存時には、圧縮・暗号化を実施



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

連続差分バックアップとスナップショット



スナップショットスケジュール

月曜日

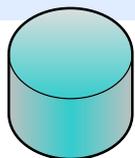
火曜日

水曜日

木曜日

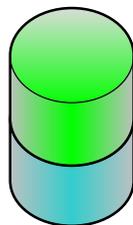
金曜日

07 May 2009 08:14 PM (8.82 GiB)



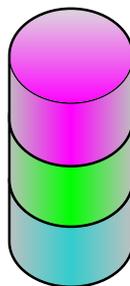
ベースイメージ

08 May 2009 04:00 PM (254.84 MiB)



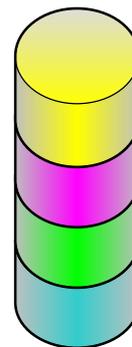
スナップショットA

09 May 2009 04:00 PM (104.17 MiB)



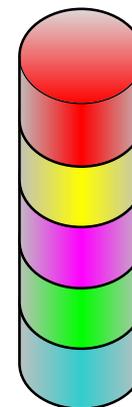
スナップショットB

10 May 2009 04:00 PM (4.00 KiB)



スナップショットC

11 May 2009 04:00 PM (723.53 MiB)

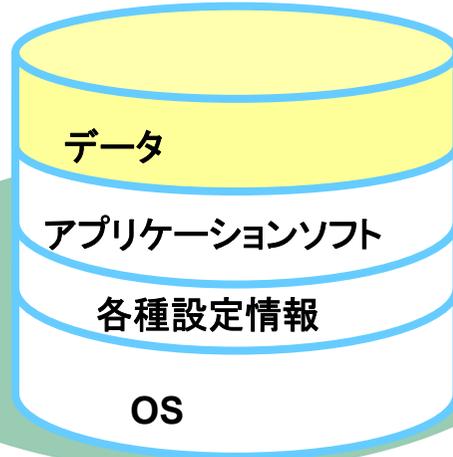
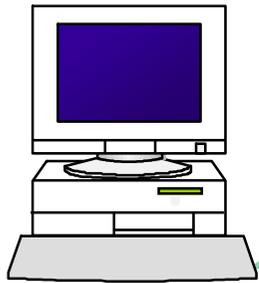


スナップショットD



NAS、テープとの違い

NASやテープ



●狙いはデータの保管

データ(ファイル)をバックアップ
過去のデータをたくさん保持することが可能



お客様PCに保存されているデータ(ファイル)をバックアップできます

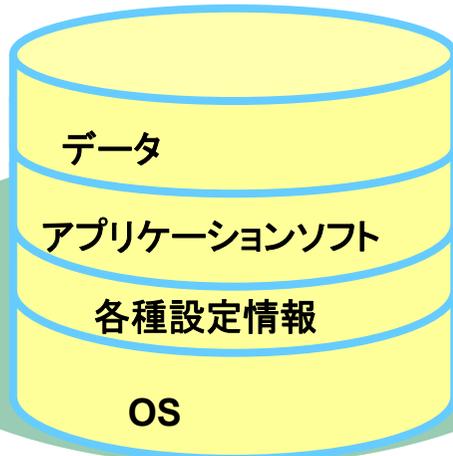
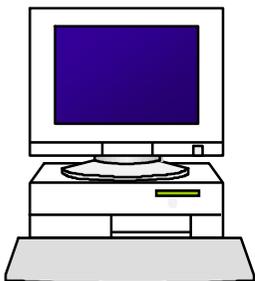
データ(ファイル)をお戻しできます。でも、OSとアプリケーションは自分でインストールして下さい。設定も忘れずに。

ちょっと似ているね

どう違うの？

あっ、PC(HDD)が壊れた！

PC SAFE



HDD内容丸ごとイメージ保存。
保存されるイメージ世代は多数

PC SAFEはお客様PCのHDDの中身を全て丸ごと保存します(ディスクイメージ保存)さらにリアルタイムに差分を保護し続けます。



HDD内容を丸ごと壊れる前の状態に戻るので、すぐにお仕事に取りかかれます。

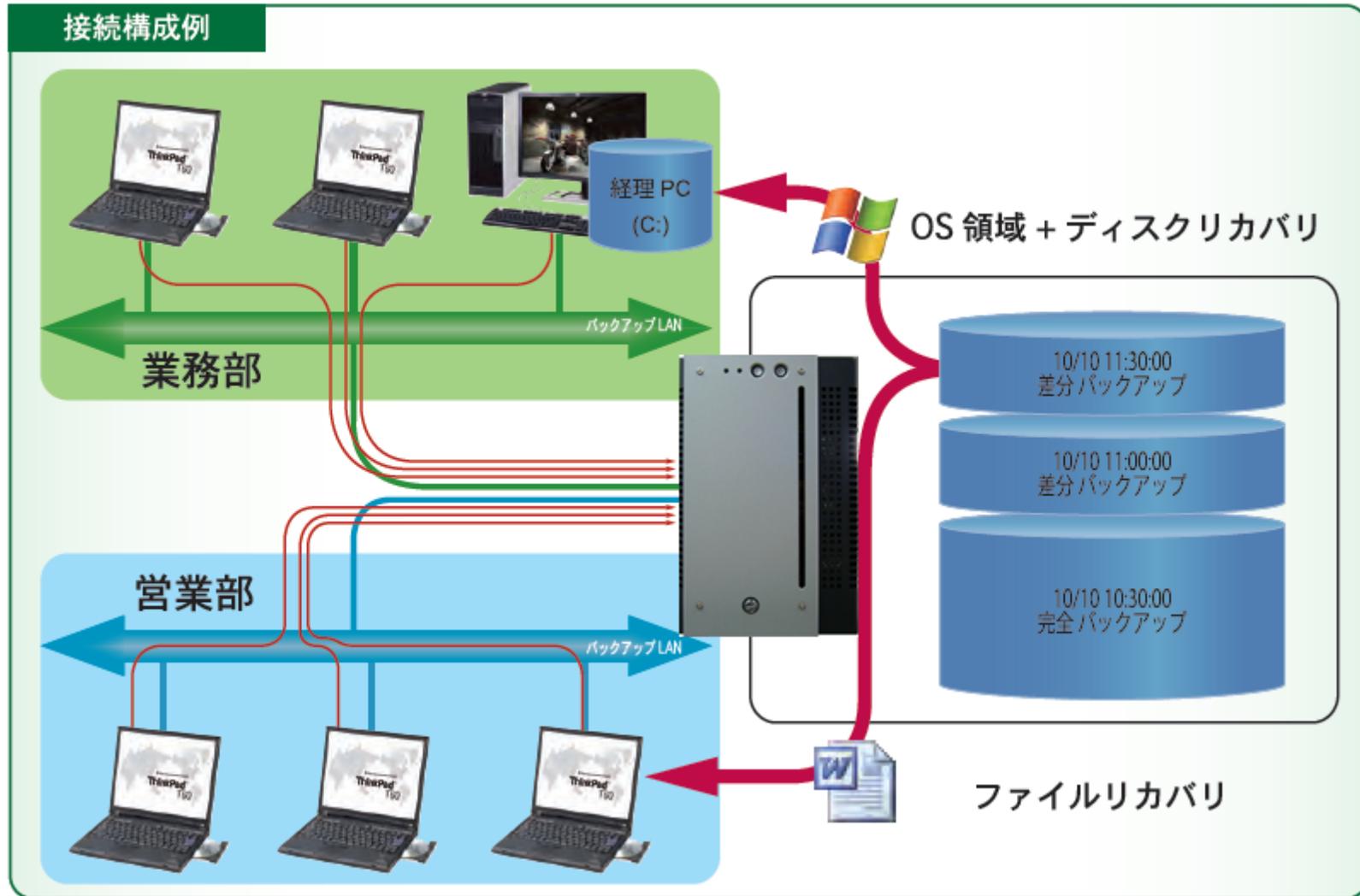
●狙いはPCの迅速な復旧！



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

PC SAFE構成イメージ



PC SAFEスペックと価格

モデル名	PC SAFE
形式	PS-B105GS
ネットワークインターフェース	GbE × 2
ネットワークプロトコル	TCP/IP
HDD構成	SATA 1TB × 5
RAIDレベル	RAID6
バックアップ容量	3TB
スナップショット間隔	最小15分毎
保護クライアント数	20台
CPU	IDual Core 2.6GHz
メモリ	2GB
マネージメント	GUI(システム、RAID)
対応OS	Windows 2000※1、XP、Vista、2003、2008
対応ファイルシステム	FAT32※2、NTFS
対応アプリケーション	Microsoft SQLサーバ※3、暗号化ソフト※4
電源	200W
所要電源	AC100-240V、50/60Hz
寸法/重量	178(D) × 330(H) × 280(W) / 約11kg
保証センドバック	1年、オンサイトオプション
本体価格(税抜)	オープン価格

※1 Windows2000 は旧エージェントソフトにて対応

※2 FAT32 はCドライブ以外に対応

※3 Microsoft SQL はバージョン制限があります。

※4 暗号化ソフトは対応していないものがあります。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.



会社紹介

会社概要

社名	コアマイクロシステムズ株式会社 Core Micro Systems, Inc.
本社	〒173-0026 東京都板橋区中丸町11-2 ワコーレ要町ビル9F
電話	03-5917-6451 / 050-5558-5410(IP電話)
代表者	代表取締役 高橋 晶三
設立	平成4年10月16日
資本金	1億5300万円
取引銀行	みずほ銀行 本郷支店
事業内容	1.ストレージシステム事業 2.ストレージ開発事業 3.代理店事業 4.OEMサービス
ウェブサイト	http://www.cmsinc.co.jp/
加盟団体	PCクラスタコンソーシアム 日本データベース学会 J-SOX対応促進協議会

コアマイクロシステムズの創業は1992年にさかのぼりません。1992年は、Microsoft社がWindows 3.1をリリースし、また、Intelを中心とする業界アライアンスグループがPCIバス1.0を策定した年でもあります。すなわち、オープンアーキテクチャの本格的な普及に合わせて、コアマイクロシステムズは誕生し進化を遂げてきたと言えるでしょう。

コアマイクロシステムズの理念は「ストレージソリューションを通してお客様の価値向上に貢献する」ことにあります。従来の500倍以上の性能を誇る自社開発の半導体ストレージSolidSTORから、低価格な汎用RAID製品まで、幅広い製品ラインアップと次世代の革新的ストレージソリューションを提供している理由は、そのためにほかなりません。

社会のグローバル化とIT化によって、企業や機関が保有するデータは貴重な情報資産へと価値を変え、情報を格納するストレージシステムの役割がこれまでに増えています。コアマイクロシステムズは、これからもお客様のさまざまなニーズにお応えする最適なストレージソリューションを提供し続けてまいります。

代表取締役社長 高橋 晶三



事業ドメイン

名称	スーパーストレージ事業	ストレージアプライアンス事業	パートナープロダクツ事業	OEMプロダクツ事業
概要	次世代ストレージの方向性として、用途・目的に合わせた最適なストレージが非常に重要になっています。これらに対応するために、専用化された技術および最適化技術を独自に基礎開発し、用途別QoSストレージとして最終製品開発を行っています。	システムレベルのストレージにおいては、ハイレベルかつインテリジェントなストレージサービスが求められます。これらに対応するために、ストレージの基本技術に加えて、ストレージミドルウェアを高度にインテグレートした専用ソリューションストレージの開発を行っています。	いつの時代でも、マーケットニーズには、的確かつ柔軟に対応しなければなりません。このためには、新しい技術、コンセプトに基づく先進的なパートナーの製品が大変重要です。	市場での多様なシステムニーズに対して、いかにスピーディに、かつ的確に機器仕様を満たすかが大変重要です。これらには、自社技術、設計能力に加えて、幅広いテクノロジーパートナーをベースとした強力なネットワークがあって実現できるものです。
製品コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・SUPER TRANSACTION STORAGE ・SUPER THROUGHPUT STORAGE 	<ul style="list-style-type: none"> ・INTELLIGENT FILE SHARING ・INTELLIGENT STORAGE VIRTUALIZATION ・INTELLIGENT BACKUP ACCELARATION 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術ブロック製品 ・補完技術製品 	<ul style="list-style-type: none"> ・BOX製品OEM ・セミカスタムOEM
製品ラインアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・DRAM SSD/CACHE ・並列負荷分散RAID 	<ul style="list-style-type: none"> ・NASストレージ ・仮想化ストレージ ・バックアップストレージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・Infortrend RAIDベアボーン製品 ・QLogic SANインテグレーション製品 ・SYNOLOGYエントリーNASベアボーン製品 ・INVENTECサーバーベアボーン製品 ・ほか、I/Oカード、ソフトウェア類 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレージ ・サーバー 



SAFEシリーズ以外の主要製品群

SUPER
STORAGE

スーパーストレージ

ERP・BI・DHW・映像処理の高速化に最適 ー超高速かつ業界最高水準のコスト性能比を実現

業界最速水準のIOPS

Solid STOR



次世代ハイエンド4K
映像対応超高速
VIDEO RAID

Super RAID

超高速大容量ストレージ統合

Super GATE



STORAGE
APPLIANCE

ZFSオープンストレージ (ユニファイド・ストレージ)



OpenSolaris / ZFS によりエンタープライズストレージシステムを従来の1/3程度のコストで実現

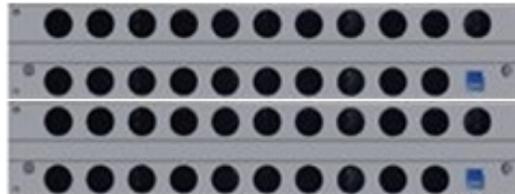
大規模同時アクセスに応える
先進のユニファイドストレージ

Prime STOR ZFS



大規模同時アクセスに応える先進の
ストレージ仮想化ゲートウェイ

Prime GATE ZFS



NexentaStorの特長

容量・スナップショット・クローン数無制限
Solaris / ZFS の信頼性と実績
既存ストレージリソースの統合
コストの大幅な削減
自己修復ストレージ・システム



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

主要提携パートナー

ACARD
TECHNOLOGY

dot HILL®

StorMagic®
SMART STORAGE MADE EASY.

SuperSpeed®

Chelsio
Communications
— A 802.11ac™ solution

DECISION

NEXENTA

Double-Take
Software

FalconStor
SOFTWARE

AVerMedia®

Infortrend®

Synology®

Inventec

sanbolic

PROMISE®
TECHNOLOGY, INC.

PRO
WARE

QLOGIC

AIC

当社のコアテクノロジーを活かした先進のベンダーとのアライアンスを実現

詳細は<http://www.cmsinc.co.jp/products/partners/index.html>



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

主要実績

Solid STOR主要実績

- ・国内大手コンピュータメーカー様 ソフトウェア開発環境
- ・国内大手通信会社 様 社内システム
- ・国内大手医薬品会社 様 ERPシステムのI/Oアクセラレーションとして
- ・国内大手製造業 様 ERPシステムのI/Oアクセラレーションとして

Super RAID / Super GATE主要実績

- ・国内大手映像プロダクション 様
- ・某著名大学映像学部 様

大規模ストレージインテグレーションの主要実績

- ・全国ネットTV局 様
- ・某著名大学様 1PB超のHPCストレージ
- ・某著名大学様 300TBのバックアップストレージ
- ・某著名大学様 1000クライアントのシンクライアントシステム
- ・某著名大学様 2000クライアントのキャッシュシステム
- ・某大手精密機械メーカー様 バックアップシステム
- ・大手不動産販売会社様 バックアップシステム
- ・大手設計事務所様 バックアップシステム

OEM主要実績

- ・国内大手 精密機械会社 様 組込み型NAS
- ・国内大手医療機器メーカー様 最新鋭CT装置内大型並列RAID
- ・国内大手ホスティング会社 様 ショートラックサーバ
- ・国内大手複合機メーカー様 組込みRAIDコントローラー
- ・国内大手印刷会社 様 専用サーバ
- ・海外大手コンピュータメーカー 様 NAS



主要取引先一覧

アジア航測株式会社
株式会社 アルゴグラフィックス
株式会社 アイ・オー・データ機器
アツミ電気株式会社
インクリメント・ピー株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
NTTアドバンステクノロジー株式会社
株式会社 NTTデータ
株式会社 NTT東日本
株式会社 エクサ
沖電気ネットワークインテグレーション(株)
加賀テック株式会社
加賀電子株式会社
カテナ株式会社
兼松エレクトロニクス株式会社
加賀ソルネット株式会社
兼松株式会社
学習院大学
クボタシステム開発株式会社
株式会社 クレッセント
株式会社 シーイーシー

株式会社CSK-ITマネジメント
シーティーシー・エスピー株式会社
新日鉄ソリューションズ株式会社
芝浦工業大学
住商情報システム株式会社
ソニーPCL株式会社
ソニー株式会社
ダイワボウ情報システム株式会社
大日本スクリーン製造株式会社
株式会社 テクシードコンパス
株式会社 Too
東京エレクトロンデバイス株式会社
東芝ソリューション株式会社
株式会社 東芝
東芝メディカルシステムズ株式会社
東芝情報機器株式会社
東京大学
東芝情報機器株式会社
日商エレクトロニクス株式会社
日本電信電話株式会社
日本ストラタステクノロジー株式会社

株式会社 ネットワールド
ネットワンシステムズ株式会社
株式会社 日立システムアンドサービス
日立電子サービス株式会社
ファーストサーバ株式会社
三井情報株式会社
三菱電機株式会社
リコー販売株式会社
リコー・テクノシステムズ株式会社
ロジテック株式会社

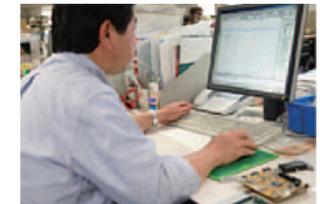


“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

沿革(その1)

- 平成 4年10月 設立(資本金1000万円、本社:千代田区)
- 平成 8年 1月 米国及び台湾からの電子機器、部品の輸入販売を開始
台湾 InforTrend社からのコントローラの取扱いを開始
- 平成 8年 6月 資本金を4000万円に増資
RAID機器の取扱いを開始
- 平成10年 6月 資本金を8000万円に増資。
RAID機器の自社開発を開始
- 平成11年 5月 NASコントローラ及びNASソフトウェアの自社開発開始
- 平成12年 3月 大手メーカー向けにNAS装置の開発を開始
- 平成13年 2月 資本金を1億2000万円に増資
- 平成13年 5月 台湾DELTA ELECTRONICS社とパートナー契約。ストレージ機器の共同開発を開始。
- 平成13年 9月 OEM向けにNAS装置の販売を開始。台湾 SYNOLOGY社と総代理店及び製品の共同開発契約を締結。
- 平成13年10月 RAID装置のOEM開発/供給を国内ストレージベンダー向けに開始
- 平成13年11月 自社ストレージソフトウェアを中国Rose Datasystems社と共同開発開始
- 平成14年 1月 資本金を1億4200万円に増資
- 平成14年 9月 日本ストレージアプライアンス株式会社を株式交換により100%子会社とする。これにより資本金は1億5300万円に増加
- 平成15年 9月 日本IBM向けにストレージ製品初のVLHとして、1U NASを登録。日本IBM社のビジネスパートナー経由の販売を開始。
- 平成15年10月 SSD(半導体ディスク)ストレージ装置の自社開発開始
- 平成16年 3月 マイクロソフト(株)のOEMパートナーとして、WINDOWS STORAGE SERVERベースのNASの開発/販売を開始
- 平成16年 5月 米国CHELSIO COMMUNICATION社のソリューションパートナーとして、次世代10GbE TCP/IPオフローダの販売および10Gbストレージ製品の開発に着手
- 平成16年 6月 インテル株式会社のテクノロジーチャネルパートナーとして、ブレードサーバの販売を開始
- 平成16年 7月 米国MELLANOX社のテクノロジーパートナーとして、国内初の20Gインフィニバンドストレージを開発
- 平成16年 8月 米国QLOGIC社のASIA PACIFICシグニチャパートナーとして初のAWARDを受ける
- 平成16年 9月 SSD(半導体ディスク)ストレージ装置の販売開始
- 平成16年10月 米国REDHAT社とOEM契約し、自社ストレージ製品への組み込み用OSとして使用開始
- 平成16年11月 本社を港区から文京区に移転
- 平成17年 2月 米国VERITAS社(現SYMANTEC社)のSTORAGE FOUNDATIONのソリューションパートナーとなる
- 平成17年 6月 台湾INVENTEC社とパートナー契約。サーバ製品お国内販売および自社製品への応用を開始。
- 平成17年 7月 台湾FIBRE LOGIC社とパートナー契約。WANロードバランサの国内販売およびWANストレージ製品の応用を開始。



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

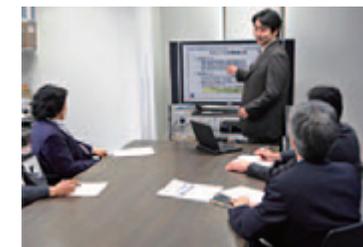
Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.

沿革(その2)

- 平成17年 9月 米国ファルコンストア社と提携し、仮想化ストレージ製品の開発を開始
- 平成17年11月 米国SUNMICRO SYSTEM社とOEM契約。SOLARIS10のアプリケーション製品の開発に着手。
- 平成17年12月 次世代QoSストレージ製品のための第1世代モジュラー階層型ストレージソフトウェアの開発に着手
- 平成18年 3月 タンベルグデータジャパン株式会社向けにVTLサーバヘッドのOEM供給を開始
- 平成18年 5月 米国FILEKEEPER社(現YOSEMITE社)と技術/販売提携。PCクライアントのCDP型ファイルバックアップアプリケーションを開発。
- 平成18年 6月 米国ORACLE社のソリューションパートナーとなる
- 米国emBOOT社とパートナー契約。iSCSIブートによるシンクライアントソリューションの展開を開始。
- 平成18年 7月 台湾DICISION COMPUTER社と提携し、次世代低価格フォレンジックストレージの開発に合意
- 平成18年 8月 米国BROCADE社と技術パートナー契約。独自のWAFSアプリケーション製品の開発/販売を開始。
- 平成18年 9月 台湾LANNER ELECTRONICS社と契約。小型NASの国内ベンダ向けOEMサービスを開始。
- 平成19年 2月 台湾AVERMEDIA社とパートナー契約。映像監視レコーダの国内販売を開始。
- 日本IBMのOEMパートナーとして、サーバ応用製品の開発を開始
- 平成19年 3月 米国SOFT TREE社のパートナーとして、DB監査ツールの国内販売に向けた評価を開始
- 米国TELREX社のパートナーとして、VoIPレコーダの国内販売に向けた評価を開始
- 平成19年 4月 米国CLUSTER FILE SYSTEM社と次世代大規模オブジェクト型スラスタストレージシステムの開発について合意
- 台湾SYNOLOGY社の次世代パーソナルNASメディアサーバの販売を開始
- 平成19年 5月 米国GTB INTERNATIONAL社と契約。情報漏えい検出/防止アプリケーション機器の国内販売に向けた評価を開始
- 平成19年10月 IPA(情報処理機構)の債務保証により、次世代QoSストレージ製品のための第2世代ストレージキャッシング&ロードバランスソフトウェアの開発に着手
- 平成20年10月 米国 Sanbolic社のWindows用64bitクラスタファイルシステムを発売
- 平成20年11月 ストレージプロセッサ・機器開発のACARD社と包括的機器開発および販売で合意
- 平成21年11月 自社開発SuperRAID SSDを発表
- 平成21年 5月 Infortrend 8G FC RAID発売開始
- 自社開発MirrorFORCEを発表
- Promise Technology社と代理店契約締結について合意
- Promise Technology社が発表したVessファミリー外部ストレージソリューションの積極販売展開を開始
- NexentaStor 製品(ZFSベース オープン ストレージ ソリューション ソフトウェア)の販売展開を開始
- 平成21年 5月 StorMagic社SvSAN製品の販売展開を開始
- 平成21年 6月 CDPアプリケーション「Server SAFE」を新リリース
- 平成21年 8月 Decision Computer社フォレンジック製品の販売展開を開始

STORAGE
APPLIANCE

SUPER
STORAGE



“ストレージ・ソリューションのリーディング・プロバイダ” コアマイクロシステムズ株式会社

Copyright © Core Micro Systems Inc., All rights reserved.



コアマイクロシステムズ株式会社

Core Micro Systems, Inc.

URL: <http://www.cmsinc.co.jp/> Mail: sales@cmsinc.co.jp
TEL: 03-5917-6451 IP Phone: 050-5558-5410 FAX 03-5917-6452
本社 〒173-0026 東京都板橋区中丸町11-2 ワコーレ要町ビル9F